

平成16年度 マスターセンター補助事業

岐阜県郡上市の観光による地域振興 についての調査・研究報告書

平成17年1月

社団法人 中小企業診断協会 岐阜県支部

目 次

はじめに	1
第1章 郡上市の概要	2
1. 位置・自然	2
2. 面 積	2
3. 気 候	2
4. 人 口	3
5. 交 通	4
6. 歴 史	7
7. ブロック別の主な観光資源	8
8. 郡上市の観光動向	10
9. 郡上市の町づくりビジョン	15
第2章 郡上市における観光の実態	16
1. 郡上市の観光特性	16
2. 郡上市観光マップ	17
3. ブロック別観光マップ	18
4. 観光施設等経営実態と経営者の意識調査	25
5. 観光客（おどり参加者）の意識調査	39
第3章 郡上市を取り巻く環境変化と課題	54
1. 郡上市観光の外部環境の把握	54
2. 郡上市観光の内部環境の把握	55
3. 郡上市観光の特徴づくり	58
4. 観光の将来予測	59
5. 郡上市観光の課題	60
第4章 郡上市の観光振興	61
1. 基本構想	61
2. 郡上市観光振興の提言	67
おわりに	74

は じ め に

近年、観光に対する期待が非常に高まっている。その要因として、ゆとりある生活の実現に寄与すること、観光消費の経済効果が多くの産業に広く波及し得ること、地域振興や地域経済の活性化につながっていくこと、国内・国際交流の拡大が期待されること等があげられる。

国土交通省は平成 15 年 1 月、わが国の観光立国としての基本的なあり方を検討するため、有識者をメンバーとする「観光立国懇談会」が開催され、その直後の第 156 国会に小泉総理の施政方針演説において、観光の振興に政府を挙げて取り組むこととし、日本を訪れる外国人旅行者を 2010 年に 1,000 万人に倍増させることを目標に掲げた。

このよう中で、岐阜県郡上市は清流長良川をはじめ美しく豊かな水に恵まれ、北部は白山国立公園に位置し山紫水明の地である。

中心部郡上八幡は、清流吉田川と郡上踊りに代表される固有の歴史文化を誇る城下町であり、交通条件も、ほぼ完成の東海北陸自動車道と中部縦貫自動車道の高規格幹線道路により、中部圏に加えて首都圏・関西圏とも短時間で結ばれる立地である。

そこでこの度、当地域における観光の現状を調査分析し、訪れる観光客の意識を確認するとともに、今後の観光のあるべき姿や、これを活用した新たな産業おこし、就業機会の創出等により、地域の活性化に繋げるための課題を探るとともに、活性化への方策をまとめたものである。

なお、この調査・研究は中小企業診断協会経営戦略工学センター（マスターセンター）の平成 16 年度補助事業として実施したものであり、この報告書が地域経済の活性化の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査・研究事業の実施にあたり、ご協力いただきました関係各位に対し、厚く御礼申し上げます。

平成 17 年 1 月

社団法人 中小企業診断協会 岐阜県支部

支部長 大 橋 勝 利

マスターセンター補助事業委員会 委 員

中小企業診断士 神 村 晃 二

中小企業診断士 堀 貢

中小企業診断士 川 瀬 國 男

中小企業診断士 成 瀬 秀 博

中小企業診断士 前 田 志 朗

調 査 編

第1章 郡上市の概要

1.位置・自然

郡上市は、日本そして岐阜県のほぼ中央部に位置し、東部は下呂市に接し、北部は清見村および荘川村に、西部は板取村、洞戸村、福井県大野市および和泉村に、南部は美濃市、武儀町および上之保村に接している。

また、郡上市の地勢は、最低海拔地の美並町木尾（こんの）が 110m、最高海拔地の白鳥町銚子ヶ峰が 1,810mと高低差が大きく、長良川の源流部にあたる高鷲町の大日山麓一帯にはひるがの高原・上野高原が、明宝水沢上（みぞれ）一帯には、めいほう高原が広がっており、雄大な自然に囲まれたロケーションとなっている。さらに、長良川をはじめとして和良川、石徹白川など一級河川が 24 本あり、山林の高い水源涵養能力によって、美しく豊かな水に恵まれている。

2.面 積

郡上市の面積は、全体で 1030.79 km²（八幡町 242.31 km²、白鳥町 197.43 km²、大和町 154.48 km²、高鷲町 103.71 km²、美並町 79.81 km²、明宝 154.86 km²、和良町 100.19 km²）あり、岐阜県の面積の約 10%となっている。その内森林は約 90%を占め、可住地は約 9.4%で、典型的な山村型の土地利用条件となっている。

3.気 候

郡上市は太平洋からも日本海からも離れた内陸にあって、北の端を位山分水嶺が走っているので、気候分類的には、やや表日本型の傾向にあると考えられる。郡上市は南北に 50 数キロメートル、東西に 30 数キロメートルとなる菱形を縦にしたような形となっていて、北では雪が 2 メートルも積もっているのに南ではほとんど雪がないといった多様性がある。

(1)気温

最高記録は八幡町で、1921 年 8 月 9 日に 39 度に達し、最低気温は高鷲村で、1950 年－20 度を記録している。

(2)降雨・降雪

湿気を含んだ南東の季節風が越美山脈に吹きつけるため、雨量は岐阜県の中でも武儀郡に次ぐ多雨地域である。年間の総降水量は、平均 2745 mm で高鷲方面 が最も雨が多く、日雨量の最大値は 1893 年 8 月 22 日 607.3mm を八幡町で記録している。

降雪の最大値は江戸時代の記録で、1808 年郡上地域で 15 尺（450cm）の記録があり、近代に入っては、1959 年 1 月 18 日に石徹白で 340cm、白鳥町で 124cm、八幡町で 45cm の記録がある。

近年では、1981年（昭和56年）1月3日から4日の豪雪が記憶に新しく、郡上域内の交通は2日間にわたり麻痺した。

4.人 口

(1)人口の推移

岐阜県人口動態統計調査によると郡上市の総人口は平成15年に48,716人であり、昭和58年の人口52,014人と比較すると、20年間で3,298人減少しており、平成5年からの10年間では1,674人の減少がみられる。

同じく世帯数では、平成15年で15,009世帯となっており、20年の期間で見ると人口とは逆に増加傾向にある。1世帯あたりの人員は平成15年で約3.24人となっており、昭和58年の3.72人と比較して年々減少傾向にあり、確実に核家族化が進行している。また総人口に占める65歳以上の割合である高齢化率は平成2年の18.9%が平成15年28.1%と大幅に上昇している。

人口および世帯数

（単位：人、世帯）

	昭和58年	昭和63年	平成5年	平成10年	平成15年
人 口	52,014	51,608	50,390	50,519	48,716
世帯数	13,960	14,042	14,394	15,097	15,009
1世帯人口	3.72	3.67	3.50	3.34	3.24

資料：岐阜県人口動態統計調査

(2)就業者人口の状況

平成12年の国勢調査によると、総就業者人口は24,082人であり、これは総人口の約48.8%にあたる。産業別には、第一次産業就業者数が1,495人(6.2%)、第二次産業就業者数が9,963人(41.4%)、第三次産業就業者数が12,624人(52.4%)となっている。経年的には、第三次産業就業者数が増加しているのに対し、第一次産業就業者数は平成2年から12年にかけて半減し、また第二次産業就業者数も平成7年から12年にかけて急激な減少を示している。

産業就業者人口の推移

（単位：人、%）

	平成2年		平成7年		平成12年	
第一次産業就業者数	3,126	11.8	2,421	9.2	1,495	6.2
第二次産業就業者数	11,885	45.1	11,752	44.5	9,963	41.4
第三次産業就業者数	11,350	43.1	12,209	46.3	12,624	52.4

資料：国勢調査

5.交 通

郡上市は4つの国土軸（北東国土軸、日本海国土軸、西日本国土軸、太平洋新国土軸）が交わり、日本のハートランド（中心県）と呼ばれる岐阜県の中でも中央部に位置している。あと1区間を残しほぼ完成の東海北陸自動車道と中部縦貫自動車道、さらには東海環状自動車道の高規格幹線道路の開通により、高速化が期待され、中部圏に加えて首都圏・関西圏とも短時間で結ぶことが可能となる。

鉄道は美濃加茂―郡上八幡―美濃白鳥―北濃の長良川鉄道がありますが、平成12年度の乗車人員は1,262,362人で平成6年度の1,775,476人に比べ513,144人減少している。

バス路線は、高速バス、岐阜バス、JR東海バスの民営バスに加えて一部にコミュニティバス（行政バス）が運行され、南は新岐阜・名古屋、北は金沢、東は高山と伸びている。

◆東京から東名高速を使ったアクセス

(距離：419 km 時間：5時間16分)

	東名高速		名神高速		東海北陸自動車道	
東京 IC	--->	小牧 JCT	--->	一宮 JCT	--->	郡上八幡 IC・八幡町
	343 km		20 km		56 km	
	4時間15分		15分		46分	

◆名古屋から東海北陸自動車道を使ったアクセス

(距離：88 km 時間：1時間10分)

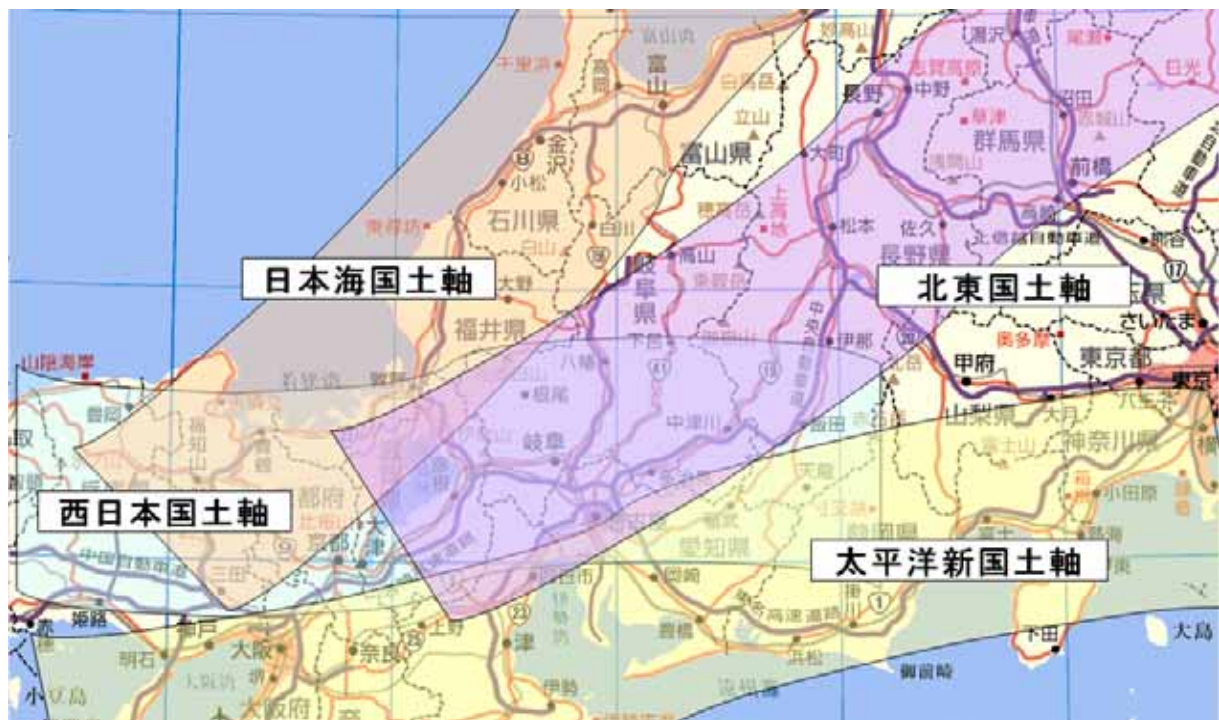
	東名高速		名神高速		東海北陸自動車道	
名古屋 IC	--->	小牧 JCT	--->	一宮 JCT	--->	郡上八幡 IC・八幡町
	12 km		20 km		56 km	
	9分		15分		46分	

◆大阪から名神高速を使ったアクセス

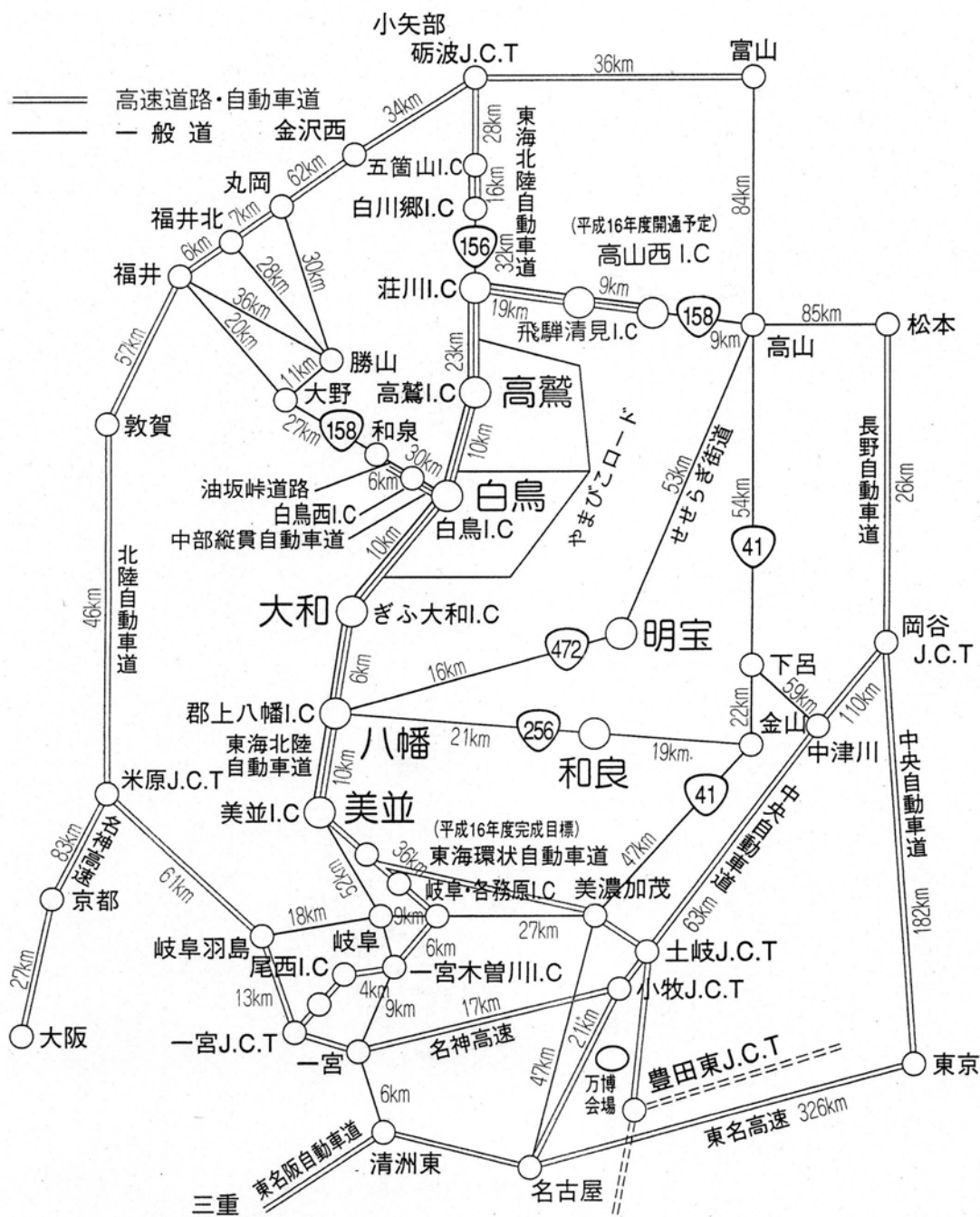
(距離： 213 km 時間：2 時間 43 分)

	名神高速		東海北陸自動車道	
大阪 IC	--->	一宮 JCT	--->	郡上八幡 IC・八幡町
	157 km		56 km	
	1 時間 57 分		46 分	

国 土 軸



距離案内図



6. 歴史

(1) 郡上郡の成立

平安時代の斉衡2年(855)に美濃国武儀郡は二分立して武儀・郡上郡となったことが『文徳実録』に記されている。郡上郡には郡上・安郡・和良・栗垣(栗栖)の四郷が置かれ、その後平安時代後期に荘園制が展開してくると、郷名は消えて気良・山田・吉田荘が成立した。

(2) 中世(鎌倉・室町・戦国時代)

鎌倉時代承久2年(1221)承久の変の結果、鎌倉幕府御家人の東胤行が、郡上郡山田荘の新補地頭に任ぜられた。東氏は阿千葉城・篠脇城(大和町)を築き、一四世紀の九代領主益之の時代には、将軍家に仕えるとともに郡上郡一帯に勢力を広めた。

戦国時代に入ると、美濃の斉藤氏や越前の朝倉氏の侵攻を受け、城を八幡東殿山へ移した。東氏代々は、五山文学の禅僧を輩出し、勅撰和歌集に名を連ねるなど文化に優れ、特に東常縁は宗祇への古今伝授によって有名であり、宗祇水(八幡町)の古蹟が残っている。

(3) 近世(江戸時代)

戦国時代末期、永禄2年(1559)東氏の支族遠藤盛数が東氏を滅ぼし、八幡城を築城した。その子慶隆は戦国大名として信長・秀吉・家康に従い全国を転戦し、城下町の基を築いた。その後城主は稲葉氏・遠藤氏・井上氏・金森氏と続き、宝暦4年(1754)金森頼錦の時、幕閣重臣や藩主改易をひきおこす四年間にわたる宝暦騒動が起き、この歴史事件は最近「郡上一揆」として映画化された。

この後青山氏が入部し幕末まで続き、このころから郡上踊りなど町民文化が爛熟した。明治維新時には、凌霜隊などの悲劇事件などがおきている。

(4) 近代(明治・大正・昭和時代)

明治4年(1871)廃藩置県により旧村は郡上県となったが、その後岐阜県に編入された。明治12年(1879)に郡治分割が施かれ、11町88ヶ村として郡上郡役所が八幡町に設置。明治21年(1888)町村制が施行され、郡上郡は1町16ヶ村となり、明治30年(1897)には郡上郡会が成立した。

戦後、昭和29年(1954)町村合併促進法施行により、群制廃止し郡上郡は八幡町・大和町(昭和60年町制)・白鳥町・高鷲村・美並村・明方村(平成4年度明宝村)・和良村となった。そして、この7ヶ町村が合併し、平成16年(2004)3月1日に郡上市が誕生した。

7. ブロック別の主な観光資源

(高鷲ブロック)

郡上市高鷲町は「白山国立公園ひるがの高原」を有する分水嶺のある高原地帯である。エアコンの要らない夏は避暑地として、冬はスキーやスノーボード等、ウィンタースポーツのメッカと

なる。

高鷲町は、清流として名高い長良川の源流に位置し、東には鷲ヶ岳、西には大日ヶ岳 がそびえる、静かな山あいの里である。かつては、冬期間はしばしば雪に閉ざされるような山村であったが、先人の努力や開拓の歴史を経て、今では"三白産業"（「大根」の白、「牛乳」の白、「雪」の白）を中心に農業を基盤とした観光産業が盛んである。

※ スキー、分水嶺公園、湿原植物、湯の平温泉、「高鷲ふれあい農園」利用者募集、たかす 雪まつり（2月下旬）、ひるがの高原水バショウ祭（5月上旬）、ビア・フェスティバル in 中の島（7月下旬）、ひるがの高原木曾馬牧場、ひるがの高原大根、ひるがの高原牛乳、ひるがの源流とうふ、道の駅・大日岳

（白鳥ブロック）

郡上市白鳥町は、白山国立公園内にあり自然に恵まれ、白山信仰で栄えた町である。長良川、石徹白川、牛道川などの清流に恵まれ、2月のアマゴ釣り解禁から夏の終わりの鮎シーズン終了まで多くの釣りファンで賑わう。また、夏の風物詩「白鳥おどり」もリズムカルなテンポで若者に人気がある。このほか、町内には、5つのスキー場もあり、多くのスキーマーやスノーボーダーが訪れる。

※ 阿弥陀ヶ滝、いとしろ大杉、白山文化博物館、「白鳥おどり」（7月下旬～8月下旬）、美人の湯しろとり、「六日祭り」（1月6日）、長滝の延年、長滝白山神社（若宮修古館）、大師堂（銅造虚空蔵菩薩座像）、でででん祭り、木遊館、貴船の森公園、日本土鈴館、しそ梅漬け、郡上のやきもち、石徹白スイートコーン、フルーツコーン味来（みらい）、道の駅・白鳥

（大和ブロック）

郡上市大和町は「古今伝授の里」をキーワードに短歌による町づくりを進めている地域である。この和歌解釈法の奥義を伝える古今伝授は日本文化の原点ともいえる。

※ 古今伝授の里フィールドミュージアム（牧地内一帯）、道の駅・古今伝授の里やまと、くつろぎ広場、やまと温泉やすらぎ館、薪能「くるす桜」（8月7日）、人形浄瑠璃・文楽、長良川「夢」フェスティバル（8月14日）、みたいみせたい美術展、和歌文学館、母袋燻り豆腐（いぶりどうふ）、やまとのぶどう、やまとのなし

（八幡ブロック）

郡上市八幡町は「郡上八幡」と呼び親しまれ、四季を通じて観光地としての賑わいをみせる地域である。また、歴史も古く、郡上おどりをはじめとする様々な文化が発達した城下町である。

- ※ 宗祇水、郡上八幡城、城山公園の山内一豊と妻の像、いがわ小みち、郡上おどり（7月中旬～9月上旬）、清流吉田川ジャンプコンテスト（7月下旬）、郡上八幡春まつり（4月中旬 2日間）、郡上本染寒ざらし、連句フェスタ宗祇水、古い町並み、心の森ミュージアム遊童館、郡上本染、郡上鮎、郡上紬

（明宝ブロック）

郡上市明宝(めいほう)は山と川に囲まれ、イワナやアマゴ等の溪流釣りを楽しむ人々で賑わう。夏のめいほう高原音楽祭には全国からジャズファンが訪れ、冬はめいほうスキー場のスケールの大きなゲレンデに人気がある。

- ※ 道の駅・明宝（磨墨の里公園）、明宝温泉 湯星館、明宝歴史民族資料館、国田家の芝桜、めいほう高原体験センター「もりっこはうす」、めいほうスキー場、めいほう高原音楽祭（毎年7月最終土曜日）、寒水の掛踊（かのみずのかけおどり）、（毎年9月8日・9日）、小川の大滝、千葉家のいろり火、ホテル群生地、明宝ハム、明宝トマトケチャップ

（和良ブロック）

日本一の長寿の里(男性平均寿命)郡上市和良町は、和良川に国の特別天然記念物「オオサンショウウオ」が生息するのどかな山里である。特産品もアガリクスをはじめ、自然がはぐくんだオリジナル商品が豊富である。

- ※ 念興寺の鬼の首、オオサンショウウオ、日本一の長寿村、和良川公園オートキャンプ場、道の駅・和良、和良村運動公園、戸隠神社例祭（10 月初旬）、夏休みはざこウォッチング（8月下旬）、御手洗の滝・三日月の滝、重ね岩、蛇穴、おふくろの味もろみ味噌、おばばのわさび漬、アガリクス茸

（美並ブロック）

郡上市美並町は、奥長良川県立自然公園の一部を形成する長良川を有し、夏には鮎の友釣りで太公望が集い、ラフティングやカヌーで自然体験が満喫できる。秋には4ヶ所のヤナ場で落ち鮎を味わうことができる。うなぎを神様の使いと崇める粥川の森では百年杉の森や遊歩道が整備され森林浴が楽しめる。

- ※ 円空岩、日本まん真ん中センター・円空研究センター、美並ふるさと館（円空ふるさと館・生活資料館）、日本まん真ん中温泉子宝の湯、釜ヶ滝、矢納ヶ淵、神の御杖杉、粥川のウナギ、星宮神社、ボタン園、円空酒、円空ふるさとみそ、円空ふるさと漬（漬物）、円空ふるさとかんにゃく、円空うどん、道の駅・美並

8.郡上市の観光動向

(1)観光客数

郡上市の平成15年度の観光客数は6,687千人で平成10年度に比べ116.5%の伸びである。平成15年度対比で観光客数の伸びの高いブロックは大和、白鳥、美並であり、逆にマイナスとなったのは明宝である。大和ではやまと温泉、白鳥では味の里しろとり、美並では道の駅と子宝の湯がそれぞれ増加に貢献している。明宝は温泉と道の駅の減少が全体に影響している。

ブロック別観光客数の推移

(単位：延べ人数)

ブロック名	平成10年	平成12年	平成14年	平成15年	15年/10年
郡上市計	5,742,009	6,114,849	6,882,702	6,687,572	116.5%
八幡計	1,148,459	1,181,681	1,222,226	1,243,116	108.2%
大和計	133,204	378,032	412,431	465,497	349.4%
白鳥計	797,284	881,597	1,255,279	1,248,517	156.5%
高鷺計	1,948,873	2,174,195	2,280,209	2,028,598	104.1%
美並計	188,028	214,826	704,835	739,785	393.4%
明宝計	1,526,161	1,272,418	992,622	944,359	61.9%
和良計			15,100	17,700	

資料：岐阜県観光レクリエーション動態調査

主な施設別観光客数の推移

(単位：延べ人数)

施設種類、施設名	平成10年	平成12年	平成14年	平成15年	15年/10年
・郡上おどり、春まつり、ふるさとまつり	330,450	358,000	350,250	361,600	109.4%
・ドライブイン大滝苑	96,831	94,711	137,115	172,783	178.4%
・八幡釣り・やな	209,000	85,095	82,225	62,108	29.7%
・道の駅古今伝授の里やまと	54,214	49,500	170,316	176,100	324.8%
・やまと温泉やすらぎ館		273,382	210,993	257,976	
・ウイングヒルズ白鳥リゾート	265,872	294,160	266,628	218,367	82.1%
・スノーウエーブパーク白鳥高原	141,480	139,020	151,287	100,453	71.0%
・イトシロシャーロットタウン	65,734	47,451	43,418	46,949	71.4%

・しらおスキー場	69,151	29,161	52,935	41,073	59.4%
・油坂スキーパーク	8,526	3,761	9,678	4,856	55.9%
(※白鳥ブロック スキー場 小計)	550,763	513,553	523,946	406,842	73.8%
・味の里しろとり			154,811	173,776	
・美人の湯しろとり	17,500	174,103	190,597	173,527	991.6%
・白鳥おどり、春まつり	89,900	117,000	117,000	118,000	131.2%
・道の駅美並			450,510	455,429	
・日本まん真ん中温泉 「子宝の湯」	75,404	70,559	145,335	175,287	232.4%
・フォレストパーク 373	67,624	76,267	49,990	48,358	71.5%
・和良村運動公園			15,100	17,700	
・鷲ヶ岳スキー場	459,173	401,371	315,373	303,180	66.0%
・ダイナランド	364,162	350,417	330,188	302,089	83.0%
・高鷲スノーパーク		324,586	434,416	355,576	
・ホワイトピアたかす	165,439	167,574	180,595	178,702	108.0%
・ひるがの高原スキー場	93,607	71,120	64,390	65,130	69.6%
・郡上高原スキー場		52,727	47,154	44,451	
(※高鷲ブロック スキー場 小計)	1,082,381	1,367,795	1,372,116	1,249,128	115.4%
・牧歌の里	328,571	351,008	321,490	248,186	75.5%
・ひるがの高原	326,236	216,573	214,938	188,607	57.8%
・湯の平温泉	134,761	149,706	133,872	117,221	87.0%
・天然鷲ヶ岳温泉		89,113	75,047	73,741	
・牧歌の里温泉牧華		351,008	162,746	144,212	
(※高鷲ブロック温泉小計)	134,761	589,827	371,665	335,174	248.7%
・めいほうスキー場	283,320	296,340	303,715	299,865	105.8%
・明宝温泉湯星館	242,638	214,778	189,107	179,694	74.1%
・道の駅「明宝」(磨墨の里公園)	908,638	685,000	432,000	391,000	43.0%
・めいほう高原音楽祭	16,500	16,700	17,000	18,000	109.1%

資料：岐阜県観光レクリエーション動態調査

注：平成10年から継続的に調査対象となっている主要施設等を表示した。

(2)分類別観光客数

分類毎には温泉が1, 342千人と年度比較では一番増加している。構成比では1位がレクリエーション、次に温泉、買い物となっている。ブロック別の特徴としては、八幡が文化歴史や祭り、大和は温泉と産業観光、白鳥と高鷺はレクリエーションと温泉、美並は買い物、明宝は買い物とレクリエーションが高い割合である。

中分類別観光客数の推移

(単位：延べ人数)

年度	自然	文化・歴史	産業観光	レクリエーション	温泉	買い物	行・祭事	イベント	計
平成10年度	622,099	419,898	550,571	2,147,822	567,134	908,635	461,350	64,500	5,742,009
平成12年度	350,636	615,075	447,103	2,335,209	1,066,352	749,774	481,000	69,700	6,114,849
平成14年度	451,955	615,807	574,526	2,520,740	1,173,199	1,019,625	476,850	50,000	6,882,702
平成15年度	416,451	423,717	676,270	2,065,809	1,342,540	1,219,812	456,600	86,373	6,687,572
15年度/10年度	66.9%	100.9%	122.8%	96.2%	236.7%	134.2%	99.0%	133.9%	116.5%

資料：岐阜県観光レクリエーション動態調査

ブロック別・中分類別観光客数・構成比

(単位：延べ人数、%)

ブロック名	自然	文化・歴史	産業観光	レクリエーション	温泉	買い物	行・祭事	イベント	計
八幡	105,310	395,129	62,108	27,495	118,691	172,783	346,600	15,000	1,243,116
	8.5%	31.8%	5.0%	2.2%	9.5%	13.9%	27.9%	1.2%	100.0%
大和	0		176,100	16,421	257,976	0	0	15,000	465,497
	0.0%	0.0%	37.8%	3.5%	55.4%	0.0%	0.0%	3.2%	100.0%
白鳥	37,214	16,588	173,776	406,842	275,718	200,600	110,000	27,779	1,248,517
	3.0%	1.3%	13.9%	32.6%	22.1%	16.1%	8.8%	2.2%	100.0%
高鷺	188,607	0	248,186	1,249,128	335,174	0	0	7,503	2,028,598
	9%	0%	12%	62%	17%	0%	0%	0%	100%
美並	29,520	12,000	16,100	48,358	175,287	455,429	0	3,091	739,785
	4.0%	1.6%	2.2%	6.5%	23.7%	61.6%	0.0%	0.4%	100.0%
明宝	55,800	0	0	299,865	179,694	391,000	0	18,000	944,359
	5.9%	0.0%	0.0%	31.8%	19.0%	41.4%	0.0%	1.9%	100.0%
和良	0	0	0	17,700	0	0	0	0	17,700
	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
郡上市計	416,451	423,717	676,270	2,065,809	1,342,540	1,219,812	456,600	86,373	6,687,572
	6.2%	6.3%	10.1%	30.9%	20.1%	18.2%	6.8%	1.3%	100.0%

資料：岐阜県観光レクリエーション動態調査

(3)季節別観光客数・宿泊数

平成10年度から15年度にかけての観光客数が116%の伸びに対して、宿泊数は93%と減少の状況に有る。季節的には客数の10～12月と4～6月が伸びている。

ブロック別では八幡・和良が7～9月に集中し、白鳥・高鷺・明宝は1～3月に集中している。大和・美並の観光客数は年間に平均化しているが宿泊は7～9月に集中している。

月別客数・宿泊数の推移

(単位：延べ人数)

年度	客 数					宿 泊 数				
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	合計	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	合計
平成10年度	2,229,972	883,703	1,760,449	867,885	5,742,009	157,715	77,433	162,550	64,317	462,015
平成12年度	2,565,585	872,646	1,719,246	954,300	6,114,849	156,772	67,543	136,687	60,022	421,024
平成14年度	2,446,613	1,131,134	1,925,221	1,379,734	6,882,702	155,290	80,596	153,761	71,246	460,893
平成15年度	2,495,997	1,084,928	1,884,116	1,222,531	6,687,572	135,717	76,915	153,018	64,138	429,788
15年度/10年度	111.9%	122.8%	107.0%	140.9%	116.5%	86.1%	99.3%	94.1%	99.7%	93.0%

資料：岐阜県観光レクリエーション動態調査

ブロック別・月別客数泊数・構成比（平成15年度）

(単位：延べ人数、%)

ブロック名	客 数					宿 泊 数				
	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	合計	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	合計
八幡	111,254	236,400	690,296	205,166	1,243,116	13,036	28,700	41,876	18,612	102,224
	8.9%	19.0%	55.5%	16.5%	100.0%	12.8%	28.1%	41.0%	18.2%	100.0%
大和	117,275	107,132	143,841	97,249	465,497	1,224	3,540	9,371	556	14,691
	25.2%	23.0%	30.9%	20.9%	100.0%	8.3%	24.1%	63.8%	3.8%	100.0%
白鳥	549,516	164,069	314,038	220,894	1,248,517	23,277	5,568	18,162	7,539	54,546
	44.0%	13.1%	25.2%	17.7%	100.0%	42.7%	10.2%	33.3%	13.8%	100.0%
高鷺	1,121,130	258,655	290,758	358,055	2,028,598	85,869	33,200	63,507	31,593	214,169
	55.3%	12.8%	14.3%	17.7%	100.0%	40.1%	15.5%	29.7%	14.8%	100.0%
美並	141,801	192,971	251,620	153,393	739,785	517	1,077	5,792	1,486	8,872
	19.2%	26.1%	34.0%	20.7%	100.0%	5.8%	12.1%	65.3%	16.7%	100.0%
明宝	453,621	121,901	184,563	184,274	944,359	11,664	2,890	11,260	3,732	29,546
	48.0%	12.9%	19.5%	19.5%	100.0%	39.5%	9.8%	38.1%	12.6%	100.0%
和良	1,400	3,800	9,000	3,500	17,700	130	1,940	3,050	620	5,740
	7.9%	21.5%	50.8%	19.8%	100.0%	2.3%	33.8%	53.1%	10.8%	100.0%
郡上市計	2,495,997	1,084,928	1,884,116	1,222,531	6,687,572	135,717	76,915	153,018	64,138	429,788
	37.3%	16.2%	28.2%	18.3%	100.0%	31.6%	17.9%	35.6%	14.9%	100.0%

資料：岐阜県観光レクリエーション動態調査

(4) 宿泊先別泊数

宿泊先は平成10年度から15年度にかけてホテル旅館・キャンプ場が増加し、民宿・ユースホステルが大きく減少している。ブロック別では八幡・高鷺はホテル・旅館、白鳥・明宝は民宿、大和・美並・和良はキャンプ場の構成比が高い状況である。

宿泊先別宿泊数の推移

(単位：延べ人数)

年度	ホテル・旅館	民営宿泊施設	ユースホステル	社会教育施設	公共の宿泊施設	キャンプ場	計
平成10年度	159,800	207,471	1,342	1,094	9,933	82,375	462,015
平成12年度	162,031	176,229	643	1,696	9,779	70,646	421,024
平成14年度	191,215	170,266	759	1,355	12,216	85,082	460,893
平成15年度	180,460	146,844	600	945	8,701	92,238	429,788
15年度/10年度	112.9%	70.8%	44.7%	86.4%	87.6%	112.0%	93.0%

資料：岐阜県観光レクリエーション動態調査

ブロック別・宿泊先別泊数・構成比（平成15年度）

(単位：延べ人数、%)

ブロック名	ホテル・旅館	民営宿泊施設	ユースホステル	社会教育施設	公共の宿泊施設	キャンプ場	計
八幡	37,462	33,532	600	0	4,072	26,558	102,224
	36.6%	32.8%	0.6%	0.0%	4.0%	26.0%	100.0%
大和	3,923	0	0	945	0	9,823	14,691
	26.7%	0.0%	0.0%	6.4%	0.0%	66.9%	100.0%
白鳥	1,551	39,848	0	0	4,629	8,518	54,546
	2.8%	73.1%	0.0%	0.0%	8.5%	15.6%	100.0%
高鷺	136,984	48,140	0	0	0	29,045	214,169
	64.0%	22.5%	0.0%	0.0%	0.0%	13.6%	100.0%
美並	0	0	0	0	0	8,872	8,872
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
明宝	0	25,324	0	0	0	4,222	29,546
	0.0%	85.7%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	100.0%
和良	540	0	0	0	0	5,200	5,740
	9.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	90.6%	100.0%
郡上市計	180,460	146,844	600	945	8,701	92,238	429,788
	42.0%	34.2%	0.1%	0.2%	2.0%	21.5%	100.0%

資料：岐阜県観光レクリエーション動態調査

9.郡上市の町づくりビジョン

——新市建設計画（計画期間：平成16年度～平成25年度）概要版から——

(1)ビジョンと目標

ビジョンとして「快適で活力あふれる“わ”の郷—郡上—」をキャッチフレーズに主要な目標として、

- ① にぎわいと躍動感あふれる町 —産業の振興—
- ② 快適で安らぎのある町 —生活環境の向上—
- ③ すこやかで誇りのもてる町 —伝統文化の継承とひとづくり— を掲げている。

ビジョンにおいて、「快適で」のキーワードでは豊かな自然と共生し、地域福祉の充実した環境づくりや歴史・文化を活かした安らぎある環境づくりを目指している。

「活力あふれる」のキーワードでは既存産業の充実と新規産業の創出、自然・文化・歴史など地域の魅力ある資源を活かした地域の活性化を目指している。

「“わ”の郷 郡上」では地域の連携やつながりを充実させた一体的かつ均衡ある発展、情報網・道路網のネットワークづくりの推進、伝統行事や市民イベントなど人と人の交流によるにぎわいの創出、自然環境保全に向けた循環型社会の形成、これら“わ”の創出による清らかで安らぎのある理想郷づくりを目指している。

(2)主要施策

- ① 主要施策自然と共生した地域連携が盛んなまちづくり
自然環境の保全施策、高度情報化への対応施策、地域間交流の推進施策
- ② 地域資源を生かした活力あふれるまちづくり
雇用の場・機会の創出施策、地域ブランドの育成・進行施策、自然と共生した産業環境・居住環境の形成施策、交流による活力の創出施策
- ③ 支え合い助け合う健康・安心に暮らせるまちづくり
生涯を通じた健康づくり施策、総合的な福祉の展開施策、少子化への対応施策
- ④ 豊かな心と香り高い文化を育むひと・まちづくり
新市を担う人・コミュニティづくり支援施策、地域文化の継承と活用施策
- ⑤ 安全・快適で美しく住み良いまちづくり
自然と調和した生活環境の整備施策、市民の安全性確保施策、快適な生活の確保施策
- ⑥ 健全で効率的な協働のまちづくり
質の高い行政サービス提供施策、住民主体のまちづくり施策

第2章 郡上市における観光の実態

1.郡上市の観光特性

「水と木を中心とした自然に古くから調和した伝統の文化や生活があり、その中に旅人が身を置くとき、癒しと新たな活力に満たされる。」

(1)豊かな水・雪を中心とした自然、遊び・スポーツ、観光施設・イベントがある。

自然：八幡宗祇水、ひるがの高原分水嶺、ひるがの湿原、阿弥陀ヶ滝、釜ヶ滝、矢納ヶ淵、オオサンショウウオ、粥川のうなぎ、蛇穴、ホタル

遊び：スポーツ：鮎釣り、溪流釣り、吉田川ジャンプ、スキー・スノーボード、温泉、ラフティング、カヌー、観光やな

施設：イベント：いがわの小道、ひるがの雪祭り、大和花火大会、鍾乳洞

(2)伝統・文化に基づく芸能、行事、観光施設がある。

施設：郡上八幡城、慈恩寺庭園、齋藤美術館、古今伝授の里、念興寺の鬼の首、円空岩、円空ふるさと館、八幡古い町並み、千葉家のいろり火、和歌文学館

芸能：郡上踊り、白鳥踊り、高雄歌舞伎、薪能「くるす桜」、大和人形浄瑠璃・文楽、寒水の掛踊り、戸隠神社例祭

行事：郡上本染寒ざらし、白山文化博物館、花奪いまつり（六日祭）

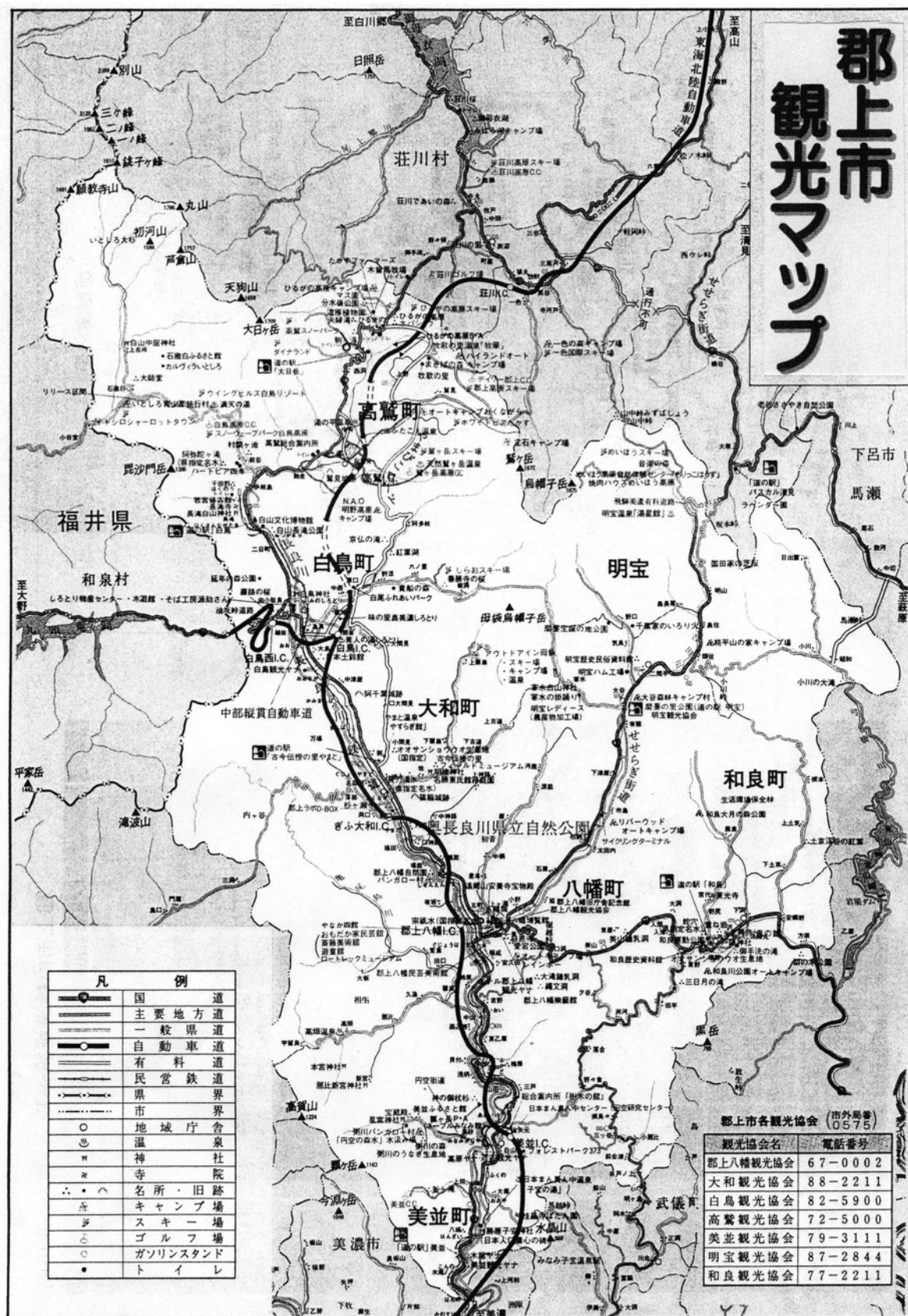
(3)緑と木の自然、遊び、観光施設・イベントがある。

自然：湿原植物、ミズバショウ祭、いとしろ大杉、神の御杖杉、ボタン園

遊び：オートキャンプ場、山菜取り、延年の森公園森林浴、粥川の森遊歩道、白山登山コース、ひるがの高原木曾馬牧場、木工おもちゃ

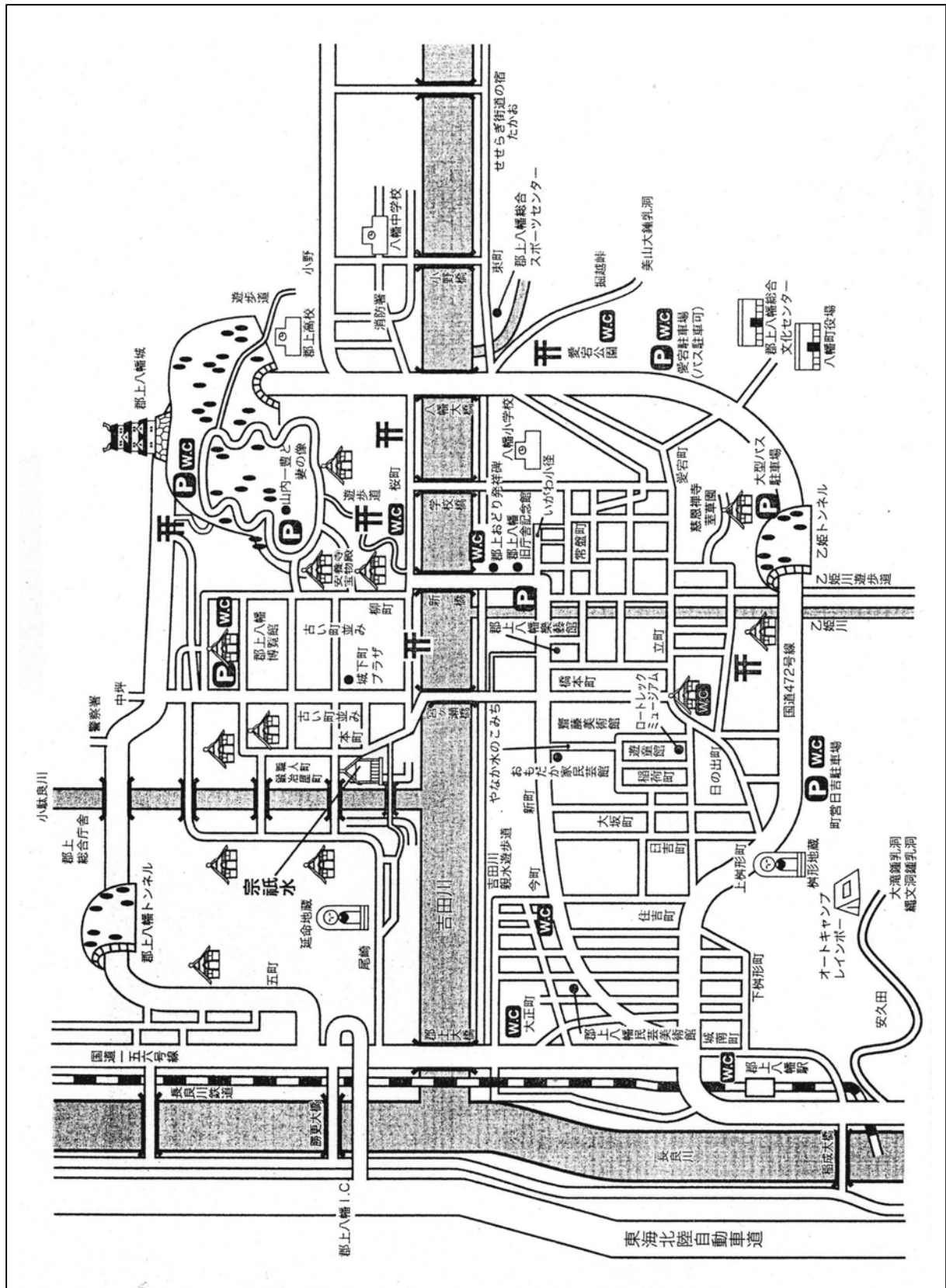
施設：イベント：和良わさび園、高鷲ふれあい農園、牧歌の里、岡田家の芝桜、木遊館、心の森ミュージアム遊童館、みたいみせたい美術展

2.郡上市観光マップ



3. ブロック別観光マップ

八幡町観光マップ



白鳥町観光マップ

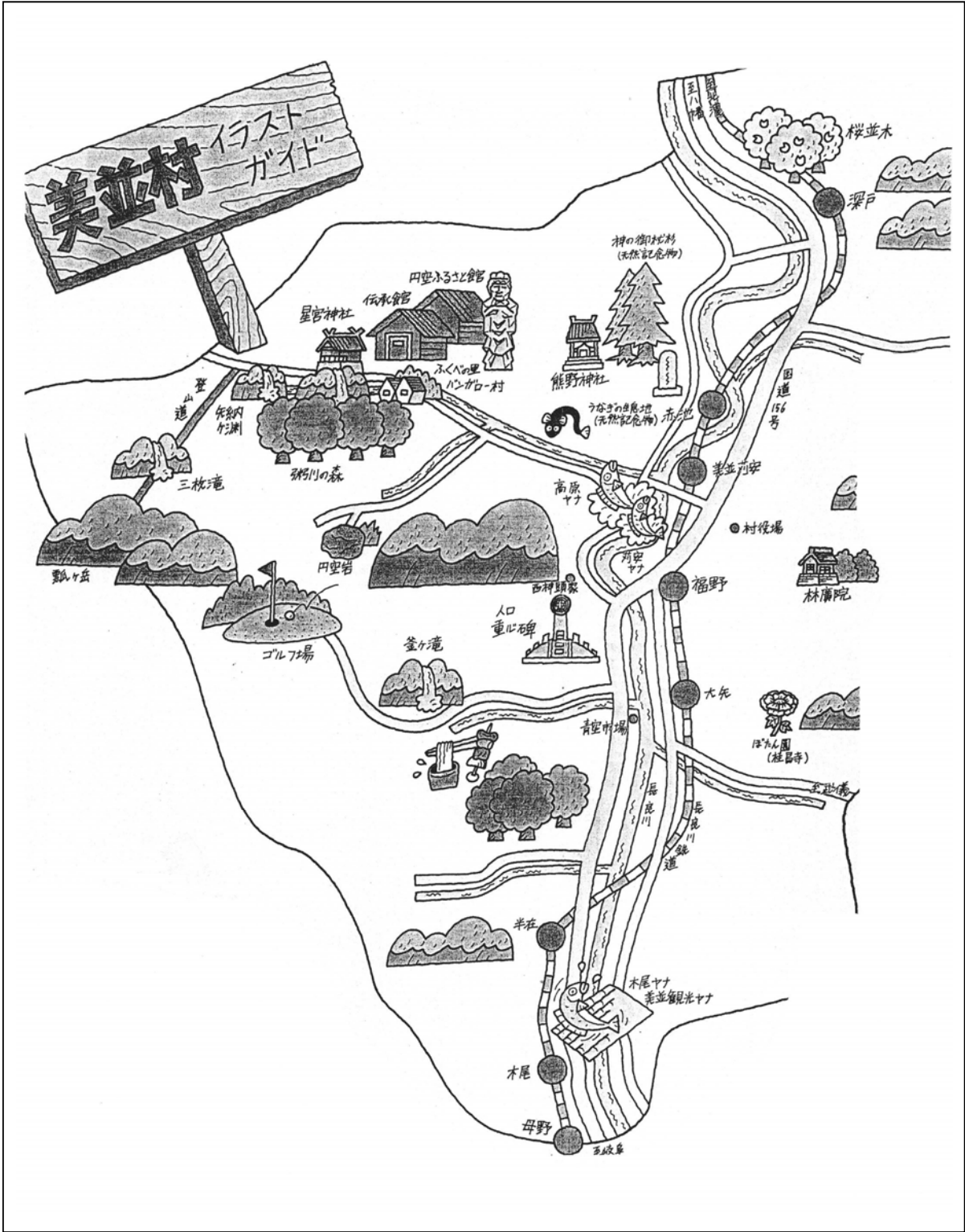
白鳥町観光マップ



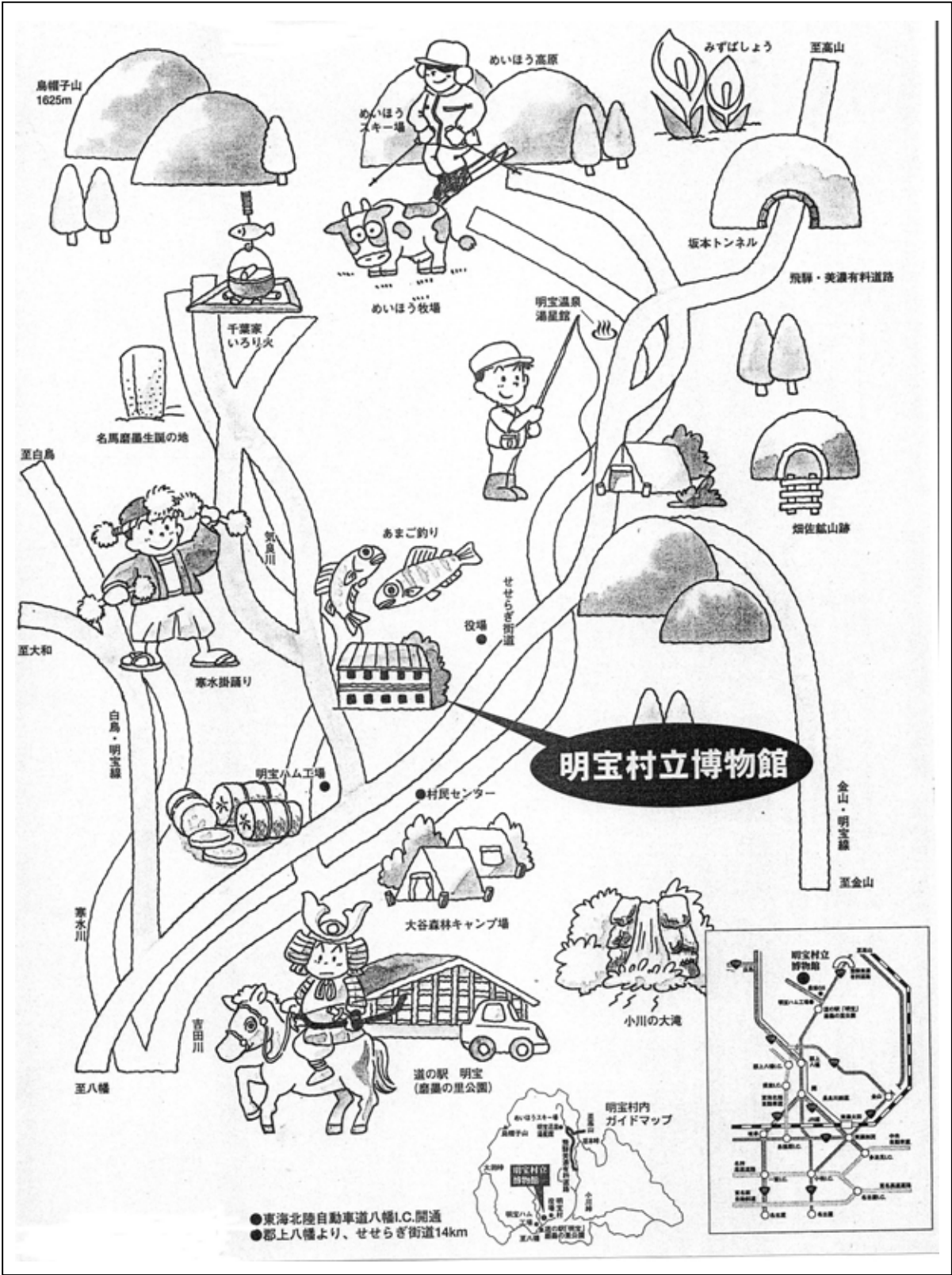
高 鷲 町 観 光 マ ッ プ



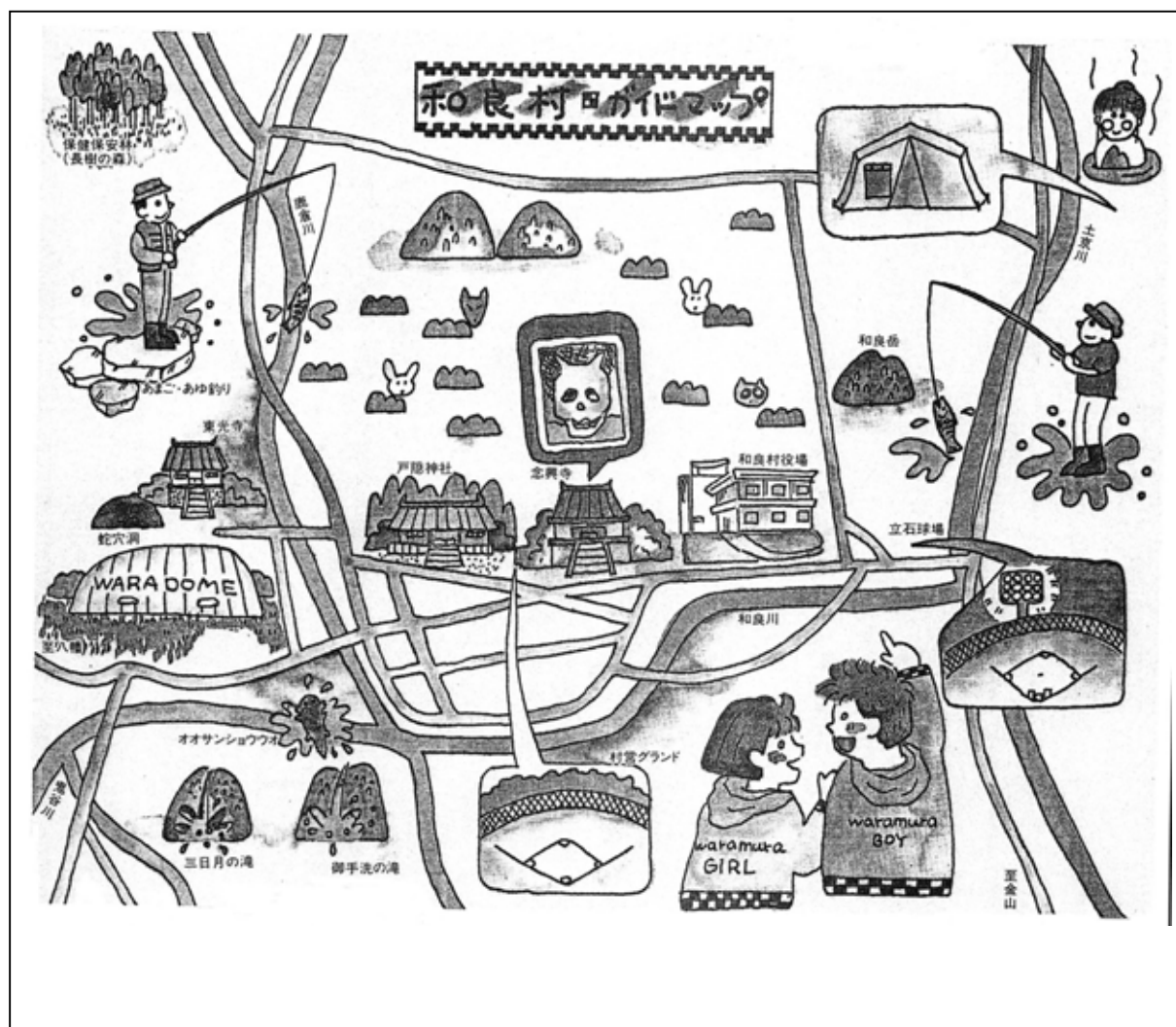
美並町観光マップ



明宝観光マップ



和良町観光マップ



4. 観光施設等経営実態と経営者の意識調査

調査方法：郡上市観光連盟事務局は郡上市の宿泊施設の経営者に調査票を配布し、該当事項記入後回収した。

調査日時：配布平成16年7月中旬、回収平成16年8月中旬

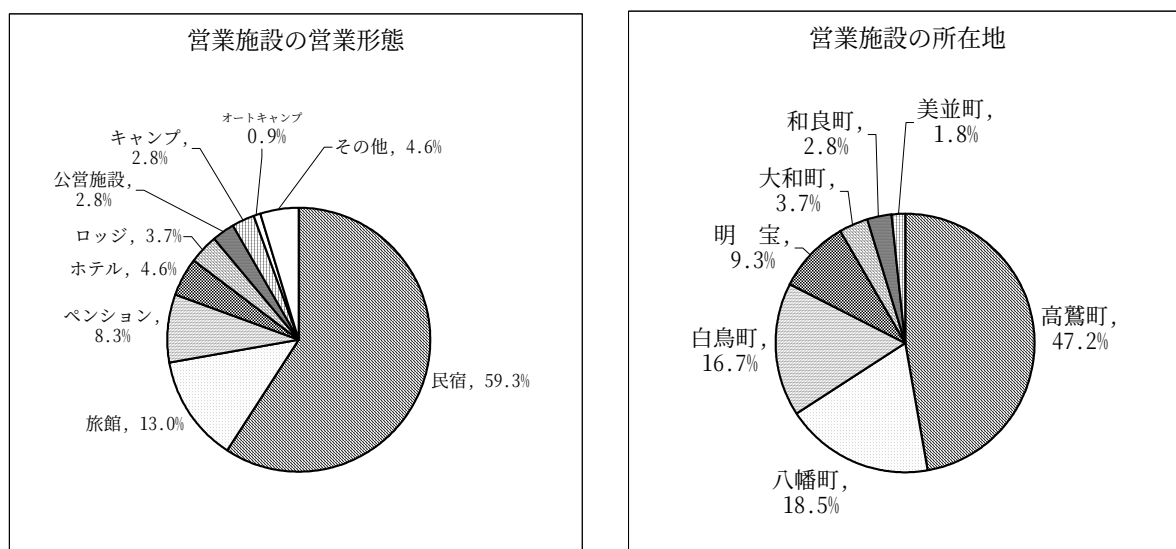
配布数：202

回収数：108

回収率：53.5%

ほぼ観光施設等経営者の実態が把握できる。

(1) 経営実態概要



① 営業形態

今回調査にご回答いただいた企業の営業形態は、民宿が 59.3%、旅館が 13.0%、ペンションが 8.3%、ホテルは 4.6%であり、民宿が 6 割弱を占めている。

② 所在地

企業の所在地は、高鷲町 47.2%、八幡町 18.5%、白鳥町 16.7%で、この三地域で全体の 8 割強を占めている。

営業形態別の所在地は、民宿は高鷲町 57.8%、白鳥町 18.8%、八幡町 10.9%である。

旅館は八幡町が 50.0%で半数を占め、次いで白鳥町 21.4%、大和町 14.3%である。

ペンションでは高鷲町が 8 割弱を占め、白鳥町、明宝が各々 1 割強である。

ホテルは八幡町と高鷲町が各々 4 割で、白鳥町が 2 割であつた。

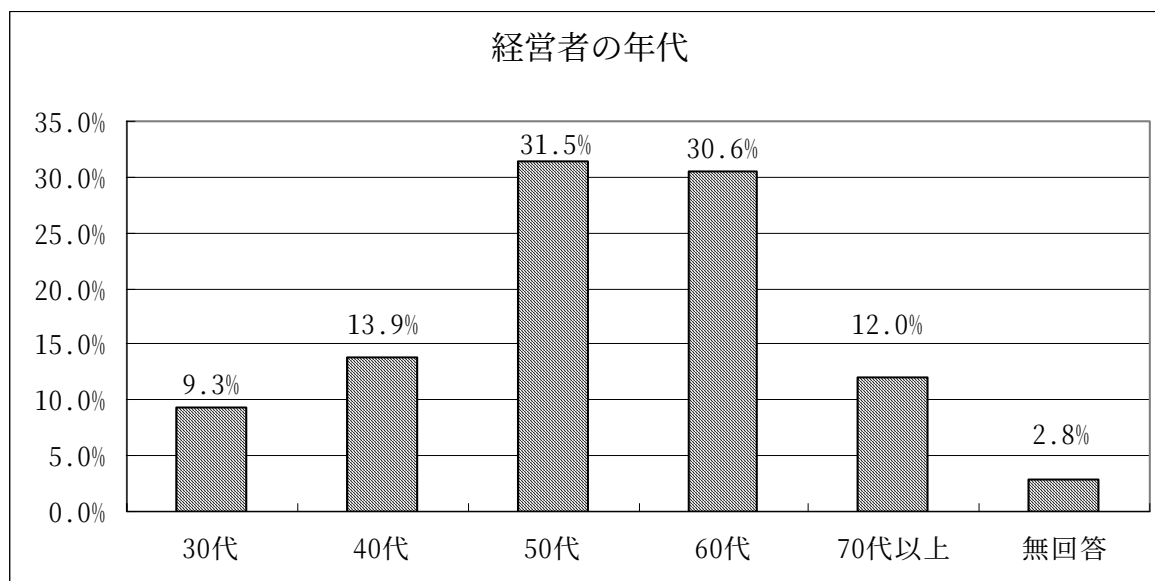
公営施設は八幡町、白鳥町、美並町から、ロッジは高鷲町から、キャンプ場は和良町、美並町から、オートキャンプ場は八幡町からそれぞれ回答が寄せられた。

営業形態別所在地

	高鷺町	八幡町	白鳥町	明 宝	大和町	和良町	美並町	合計
民宿	57.8%	10.9%	18.8%	9.4%	3.1%			100.0%
旅館		50.0%	21.4%	7.1%	14.3%	7.1%		100.0%
ペンション	77.8%		11.1%	11.1%				100.0%
ホテル	40.0%	40.0%	20.0%					100.0%
ロッジ	100.0%							100.0%
公営施設		33.3%	33.3%				33.3%	99.9%
キャンプ						66.7%	33.3%	100.0%
オートキャンプ		100.0%						100.0%
その他	20.0%	40.0%		40.0%				100.0%

③ 経営者の年代

経営者の年代は、50代 31.5%、60代 30.6%とこの世代が多く、この二つで6割強を占めている。40代以下は23.2%、70代以上は12.0%であった。

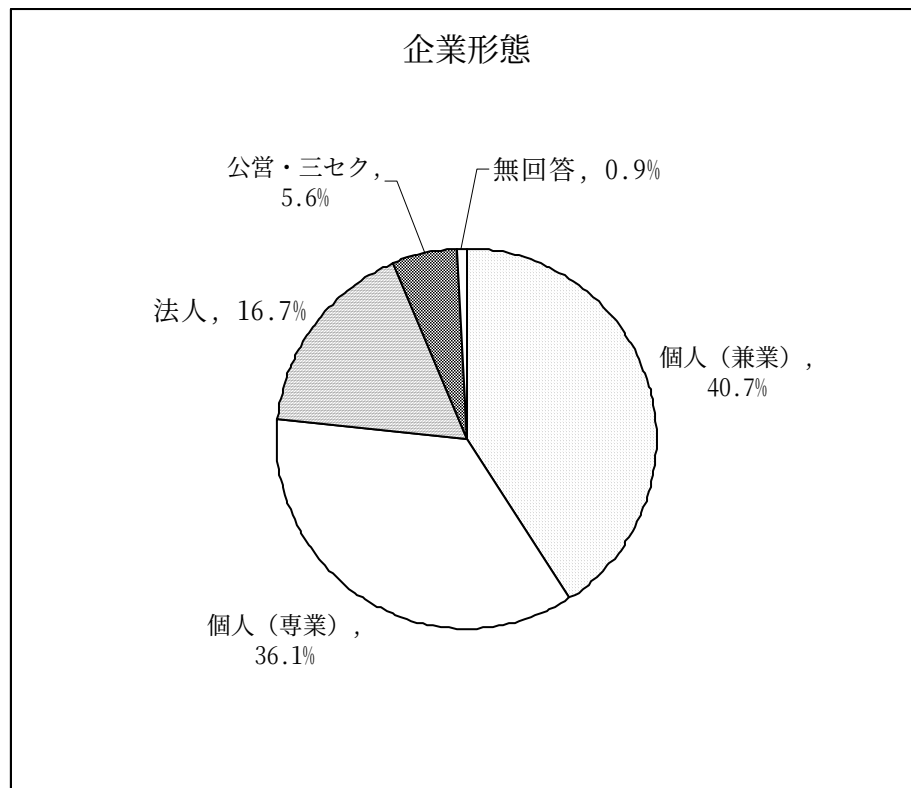


④ 後継者

後継者については、「有り」32.7%、「無し」26.0%、「未定」41.3%で、後継者が決まっているのは3割強であった。

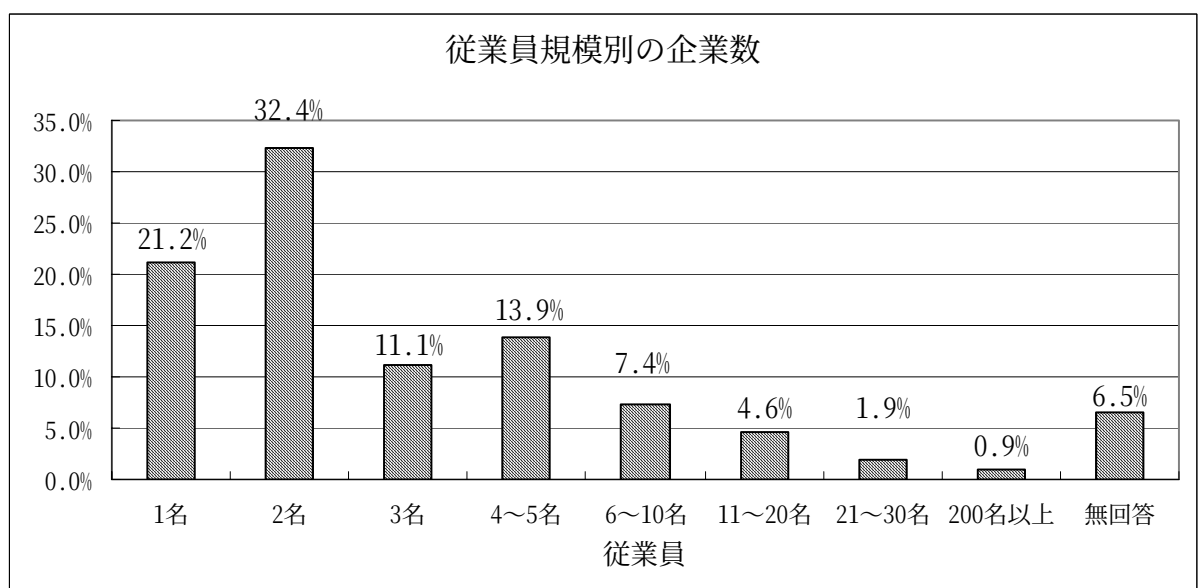
⑤ 企業形態

企業形態は、「個人」76.8%(兼業 40.7%、専業 36.1%)、「法人」16.7%、「公営・第3セクター」5.6%で個人経営が8割弱を占めている。



⑥ 従業員

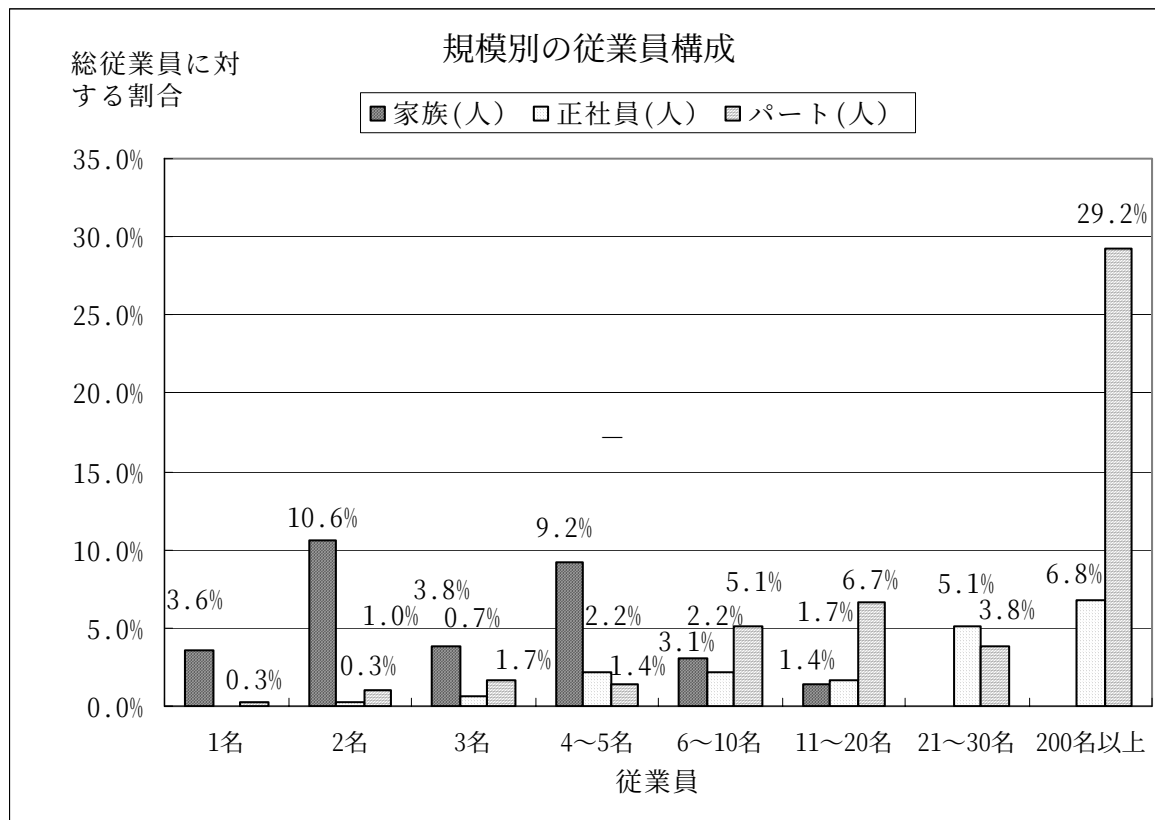
従業員は「1名」21.2%、「2名」32.4%で2名以下の企業が5割強を占めている。



従業員構成の内訳をみると、5 名以下の企業は家族経営が多く、経営規模が大きくなると家族従業員が減少し 21 名以上の企業では家族従業員は皆無である。

従業員規模別割合と従業員構成

従業員	企業数(社)	家族(人)	正社員(人)	パート(人)	計(人)
1名	21.2%	3.6%		0.3%	3.9%
2名	32.4%	10.6%	0.3%	1.0%	11.9%
3名	11.1%	3.8%	0.7%	1.7%	6.2%
4～5名	13.9%	9.2%	2.2%	1.4%	12.8%
6～10名	7.4%	3.1%	2.2%	5.1%	10.4%
11～20名	4.6%	1.4%	1.7%	6.7%	9.8%
21～30名	1.9%		5.1%	3.8%	8.9%
200名以上	0.9%		6.8%	29.2%	36.0%
無回答	6.5%	—	—	—	—
計	99.9%	31.7%	19.0%	49.2%	99.9%

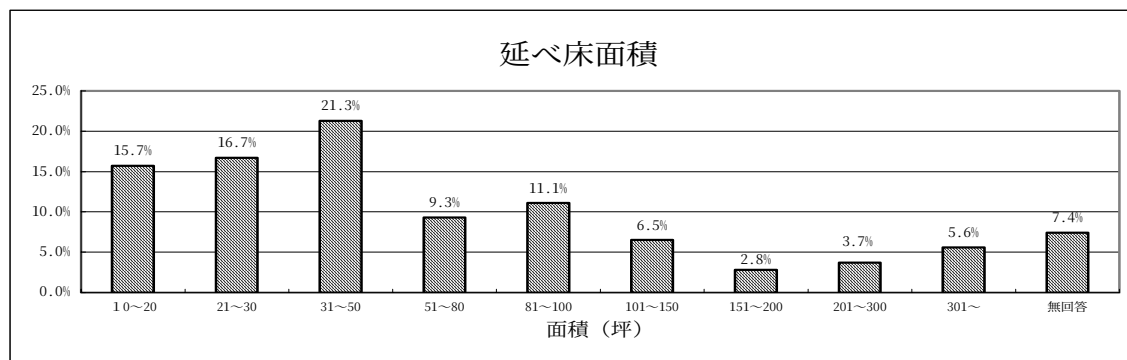


⑦ 施設規模

1)延べ床面積

延べ床面積では「10～20 坪」15.7%、「21～30 坪」16.7%、「31～50 坪」21.3%、「51～80 坪」9.3%、「81～100 坪」11.1%で 50 坪以下が全体の 5 割強を占めている。

業態別では、ホテルは 151 坪以上で、旅館は 21～150 坪が多く、民宿は 50 坪以下が多い。

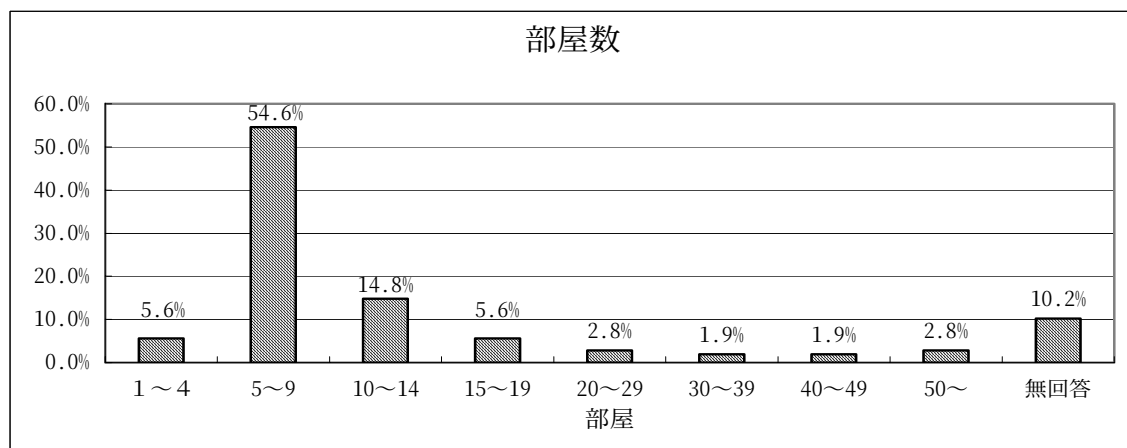


業態別規模別の施設数

延べ床面積	ホテル	旅館	ペンション	公営施設	ロッジ	民宿	キャンプ場	オートキャンプ場	その他
10～20坪			1			16			
21～30坪		2	1		2	12	1		
31～50坪		2	1		1	19			
51～80坪		3			1	4	1		1
81～100坪		2	2	2		6			
101～150坪		2	1			2			2
151～200坪	1		1			1			
201～300坪		2				1			1
301坪以上	4			1				1	
無回答		1	2			3	1		1
計	5	14	9	3	4	64	3	1	5

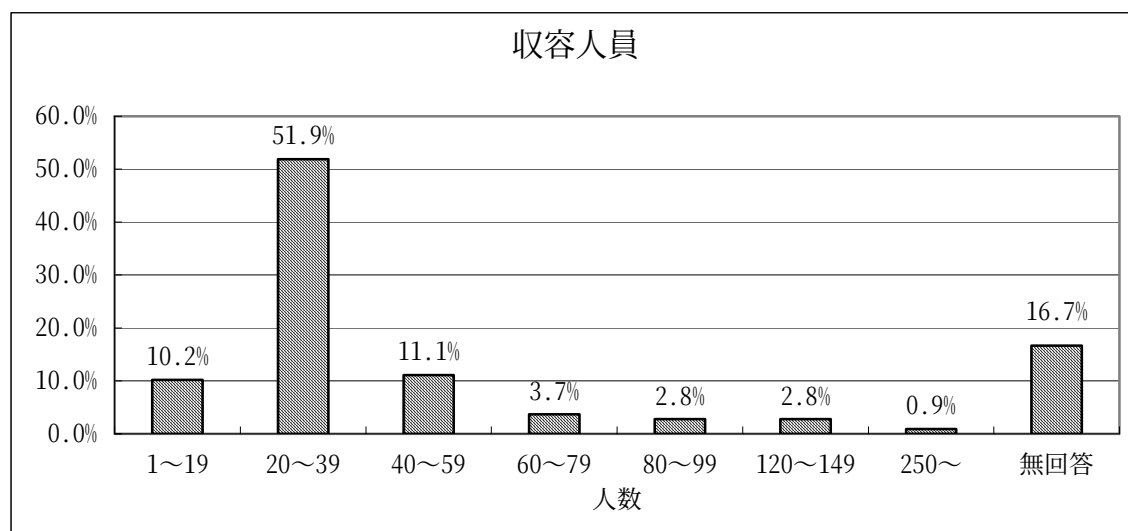
2)部屋数

部屋数では「5～9 部屋」54.6%、「10～14 部屋」14.8%で「5～9 部屋」が 5 割強を占めている。



3)収容人員

収容人員では「19 人以下」10.2%、「20～39 人」51.9%、「40～59 人」11.1%で、「20～39 人」の企業が 5 割強を占めている。

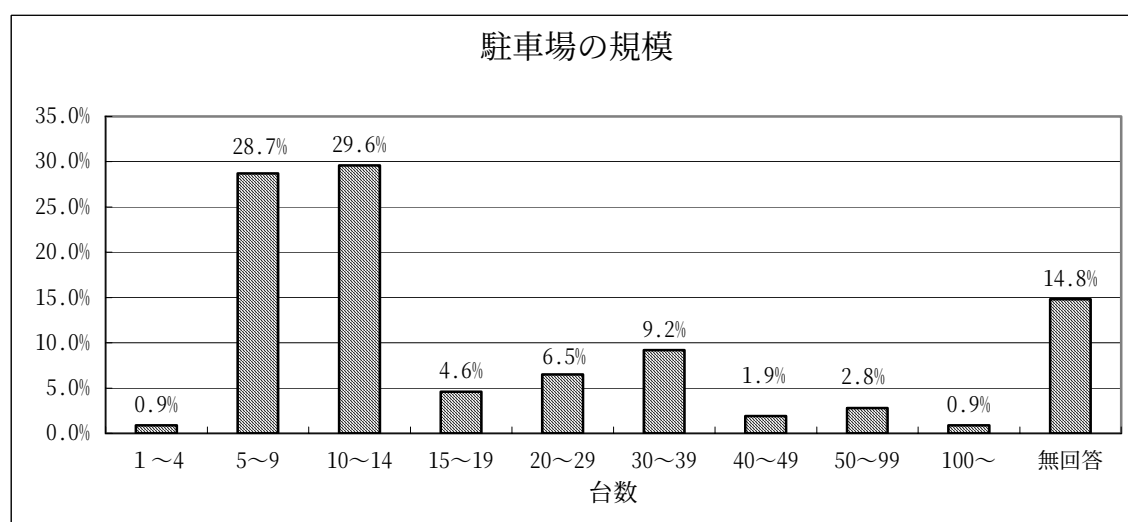


4)宴会場

宴会場については、「有り」は 45.3%で約半数が宴会場を設けている。「無し」と「無回答」は併せて 54.7%である。

5)駐車場

駐車場は「5～9 台」28.7%、「10～14 台」29.6%、「30～39 台」9.2%で、5～14 台が最も多く全体の 6 割弱を占めている。



⑧ 今後 3 年以内の設備改善の予定

今後 3 年以内の設備改善の予定については、「有り」8.3%、「無し」55.6%、「未定」34.2%、無回答 1.9%で、新たな投資には消極的である。

(2) 宿泊施設の利用者動向

① 施設利用者のグループ

利用者の上位3グループは、総合では1位はファミリー、2位は男性グループ、3位は女性グループである。 民宿はファミリーの利用者が多く、旅館は男性グループの利用者が多く、ホテルはファミリー・熟年グループの利用者が多い。

営業形態別の利用順位					(数字は順位)
	学生	ファミリー	男性グループ	女性グループ	熟年グループ
民宿	3	1	2	4	5
旅館	5	4	1	3	2
ペンション	4	1	2	2	4
ロッジ	1	1	1	4	
ホテル	3	1		3	1
公営施設	3	1	3		2
キャンプ		1	2	3	
オートキャンプ	1	1	1		
総合	4	1	2	3	5



② 県外観光客の居住地域

来客居住地域は、岐阜県以外の県名を1位・2位・3位の順位で調査したところ、その居住地域は関西地方が最も多く、ついで中部地方の順となっている。

関西地方は大阪が多く、中部地方は愛知が多い。

地方別居住地

居住地域	1位地域	2位地域	3位地域	居住地域	1位地域	2位地域	3位地域
中部地方	42.6%	30.6%	40.7%	関東地方	2.8%	0.9%	9.2%
関西地方	44.4%	51.9%	28.7%	四国地方		2.8%	4.7%
				無回答	10.2%	13.9%	16.7%

県別居住地

居住地域	1位地域	2位地域	3位地域	居住地域	1位地域	2位地域	3位地域
愛知	38.0%	16.7%	13.9%	東京		0.9%	6.5%
三重	1.9%	6.5%	15.7%	神奈川	0.9%		
静岡	0.9%	3.7%	2.8%	埼玉			0.9%
滋賀	0.9%	0.9%	3.7%	千葉			0.9%
福井			0.9%	関東地方	1.9%		0.9%
北陸			1.9%				
長野			0.9%	徳島		2.8%	1.9%
中部地方	0.9%	2.8%	0.9%	香川			0.9%
大阪	38.9%	24.1%	7.4%	四国地方			1.9%
京都		13.0%	8.3%				
兵庫	1.9%	10.2%	8.3%				
奈良			1.9%				
和歌山			0.9%				
関西地方	3.7%	4.6%	1.9%	無回答	10.2%	13.9%	16.7%

③ 宿泊日数と利用者の年代

宿泊施設の利用日数（宿泊日数）は1泊2日と2泊3日が大部分を占めている。

利用する年代は、30代、20代、40代、50代、60代以上の順となっている。

宿泊日数（複数回答）

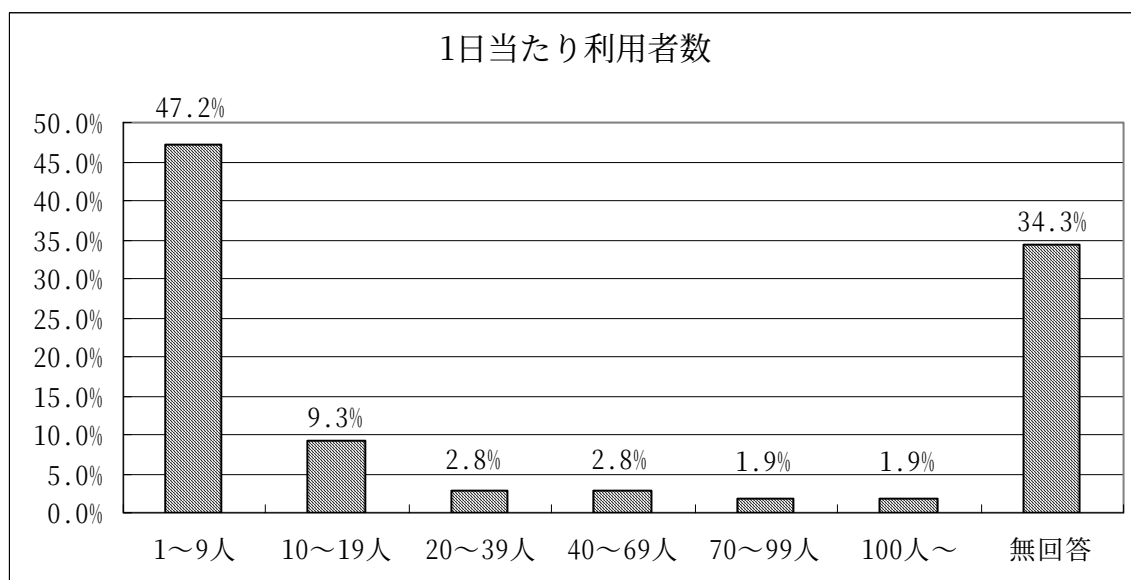
利用日数	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊以上	その他	無回答
比率	94.4%	64.8%	0.9%	3.7%	3.7%	0.9%

利用者の年代（複数回答）

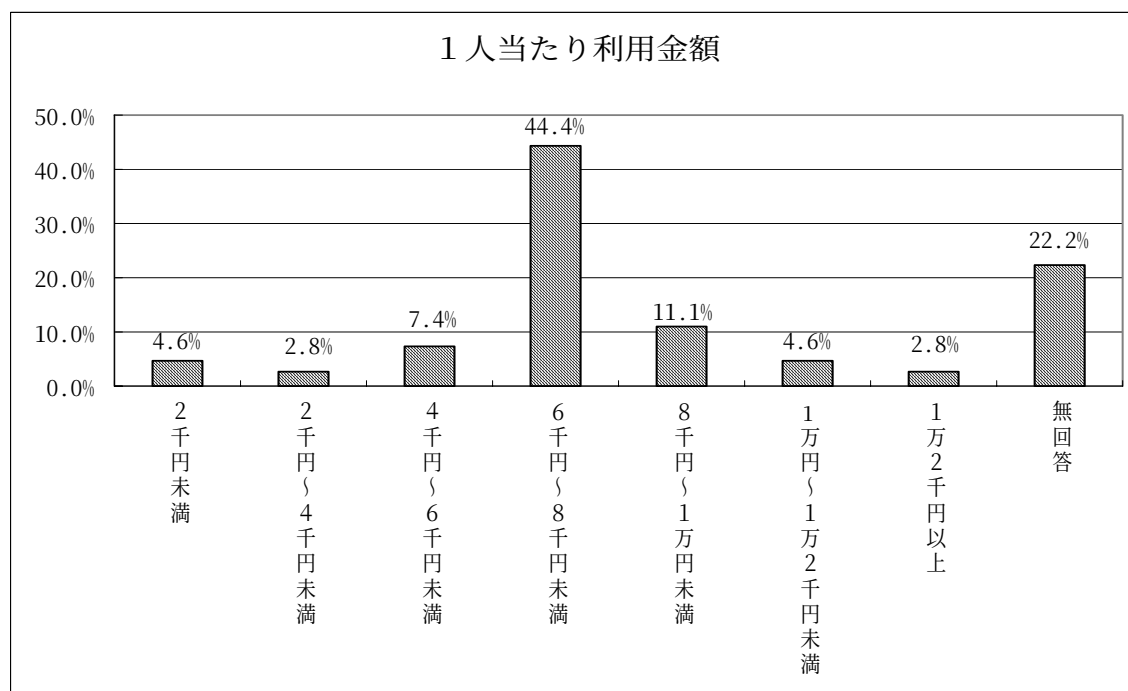
利用年代	20代	30代	40代	50代	60代以上	無回答
比率	46.3%	51.9%	28.7%	25.0%	16.7%	9.3%

④ 利用者数及び利用金額

1日当たりの利用者は、「1～9人」47.2%、「10～19人」9.3%で、9人以下が最も多い。

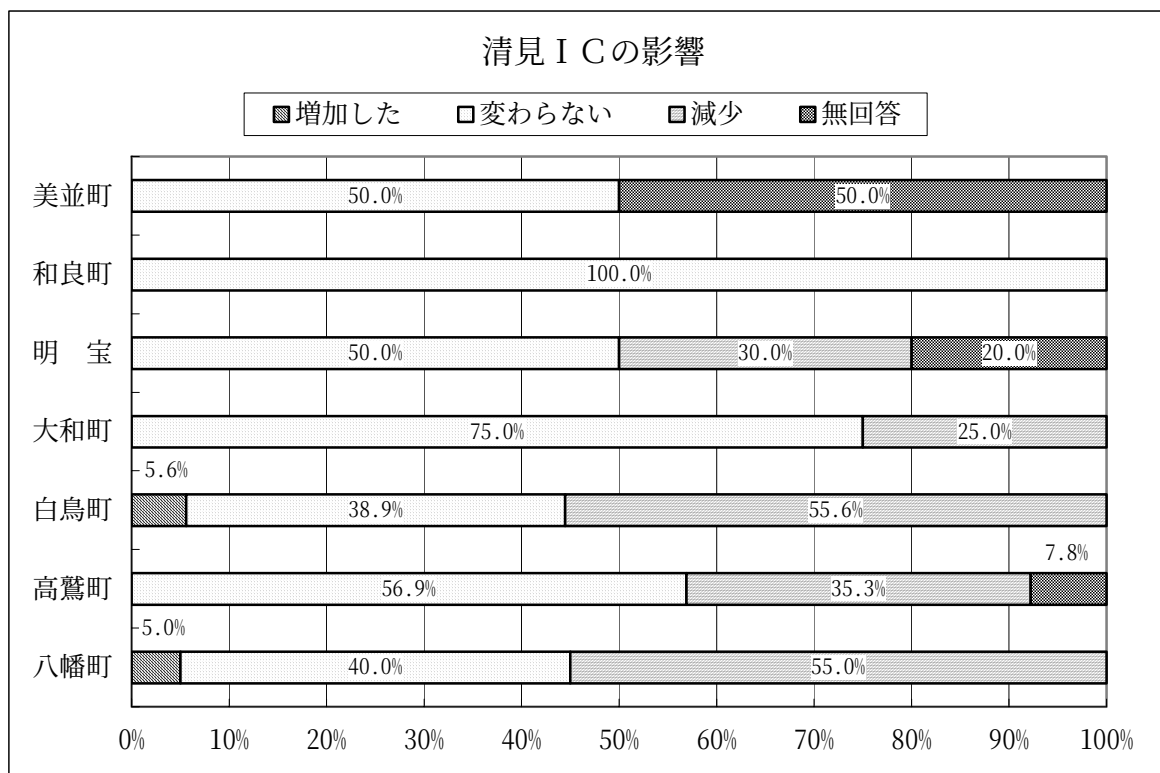


1人当たり平均利用金額は、「4,000～5,999円」7.4%、「6,000～7,999円」44.4%、「8,000～9,999円」11.1%であり、「6,000～7,999円」が最も多い。



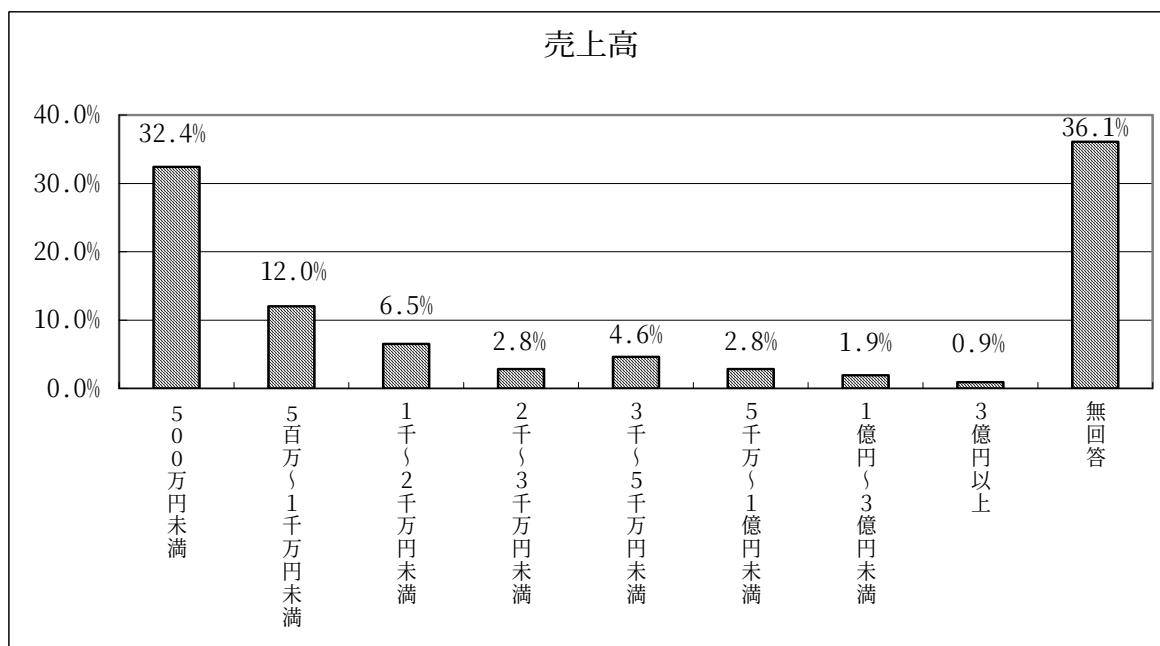
⑤ 飛驒清見 I C 開通後の客数

I C 開通による客数への影響は、「白鳥町」55.6%減少、「八幡町」55.0%減少、「高鷺町」35.3%減少、「明宝」30.0%減少、「大和町」25.0%減少で、八幡・白鳥町への影響は大きい。

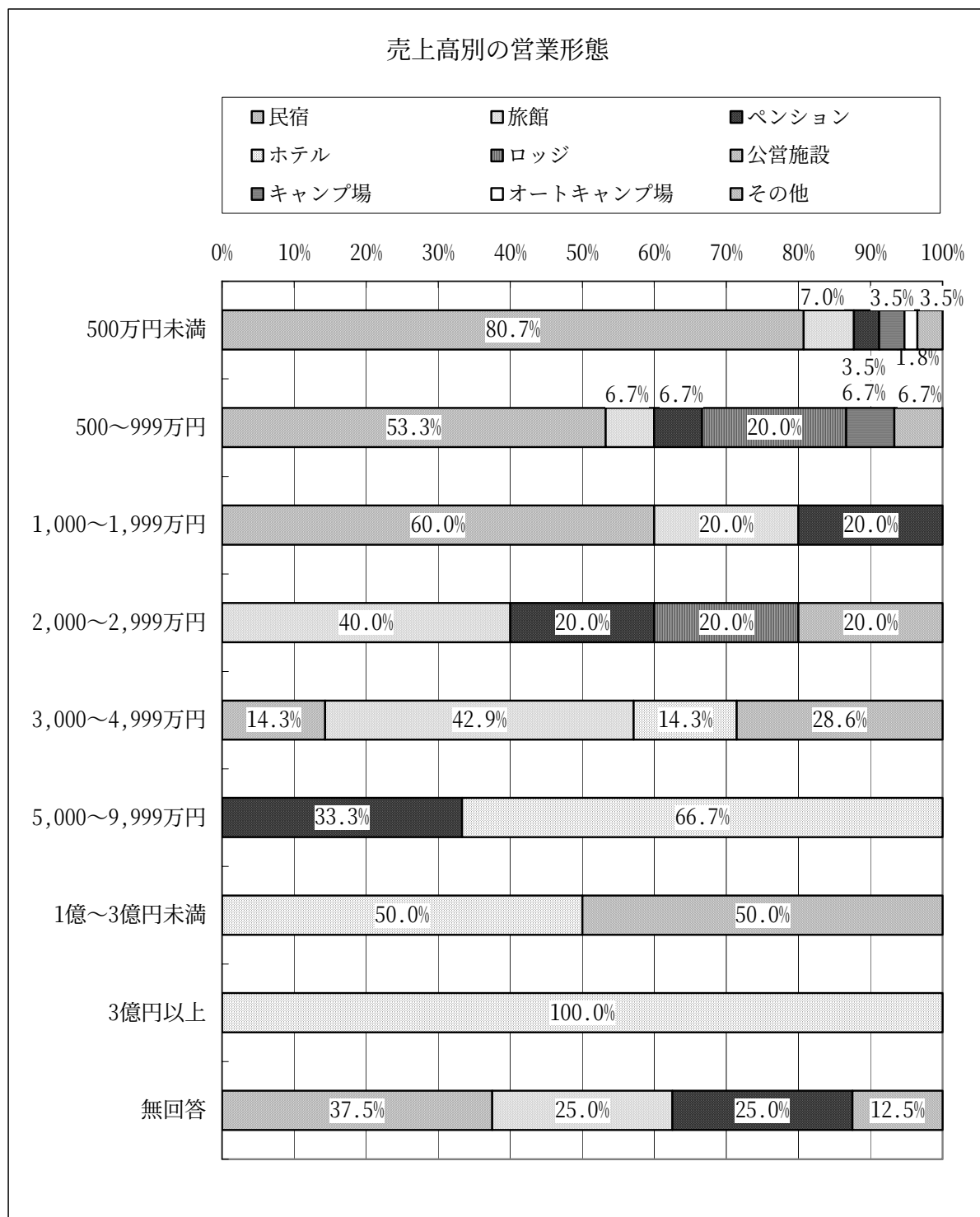


⑥ 年間売上高

年間売上高は「500 万円未満」32.4%、「500～999 万円」12.0%、「1,000～1,999 万円」6.5%で1,000 万円未満が全体の4割強を占めている。



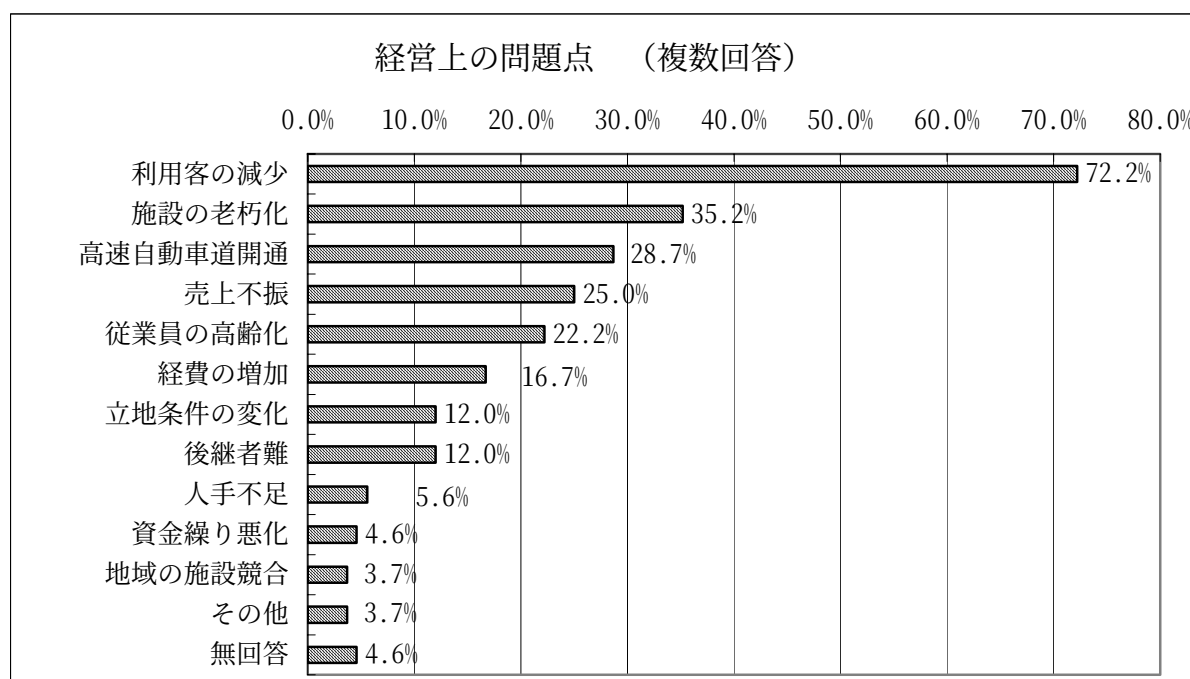
売上高別にみると、「2,000 万円未満は」民宿が多く、旅館は「500～4,999 万円」に分布し、ホテルは「5,000 万円以上」である。また、ペンションは「1 億円未満」に広く分布し、公営施設は「2,000～4,999 万円」に分布している。



(3)経営者の動向

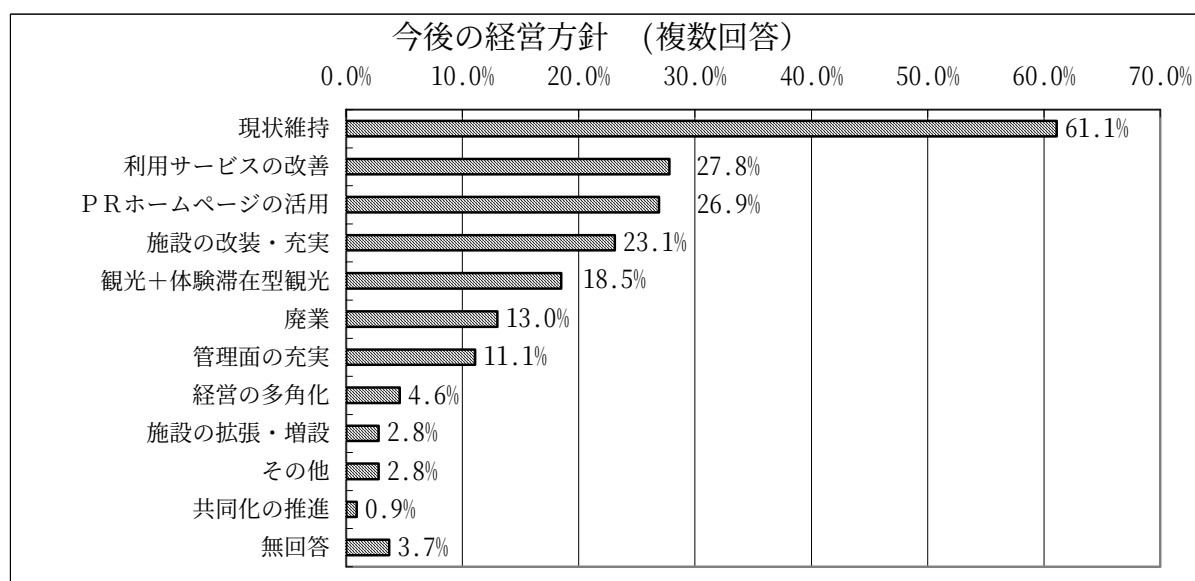
① 問題点

経営上の問題では、「利用客の減少」72.2%、「施設の老朽化」35.2%、「高速自動車道の開通」28.7%、「売上不振」25.0%、「従業員の高齢化」22.2%など経営は厳しい状況におかれている。



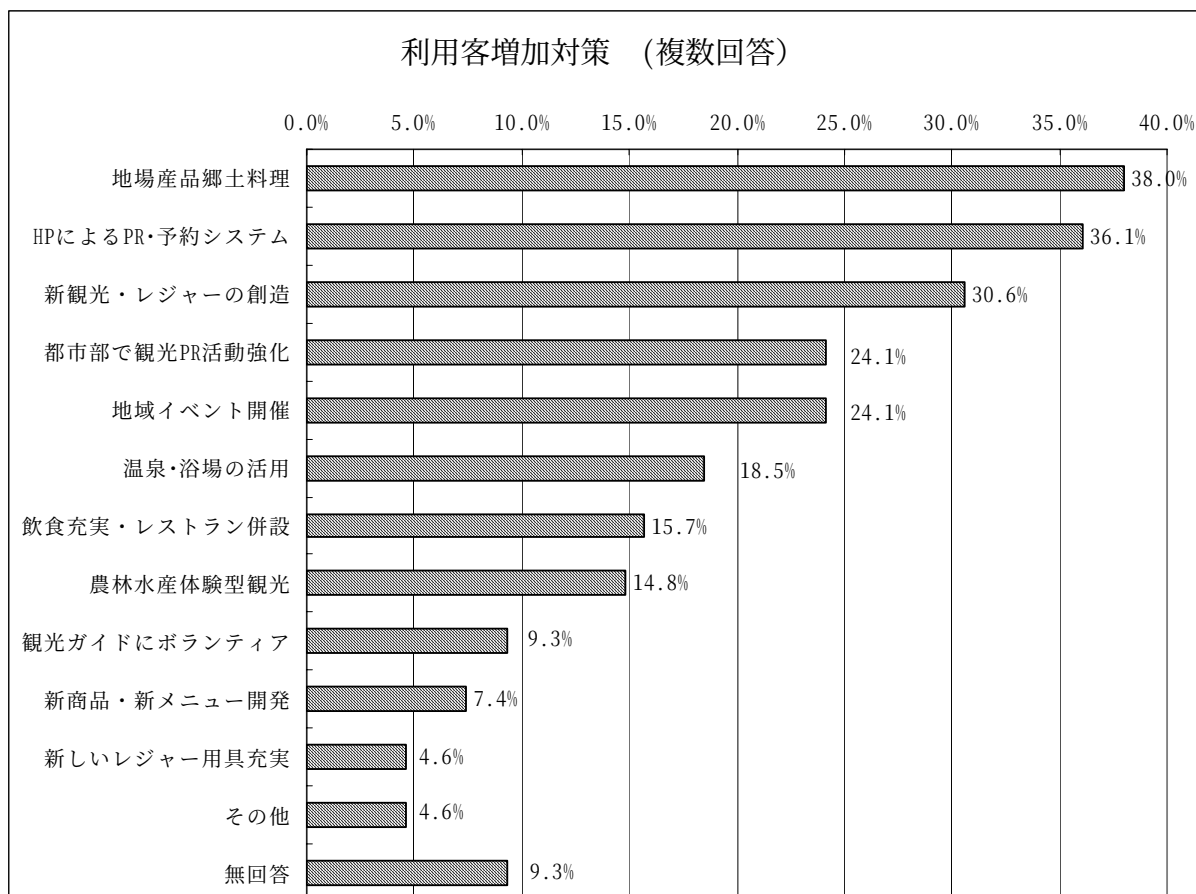
② 経営方針

今後の経営方針は、「現状維持」61.1%や「利用サービスの改善」27.8%等の消極的な経営者が多く、「PRにホームページの活用」26.9%、「施設の改装・充実」23.1%、「観光+体験の滞在型観光」18.5%といった積極的な経営者は少ない。



③ 利用客増の対策

利用者を増やすための対策として経営者は、「地場産品郷土料理」38.0%、「ホームページによるPR予約システム」36.1%、「新観光・レジャーの創造」30.6%、「都市部で観光PR活動強化」24.1%、「地域イベント開催」24.1%等で、料理の充実、ITへの取り組み、新観光・レジャーの創造、都市部での販促活動の強化、イベント開催等をあげている。



(4)経営者の意見

経営者が郡上観光に求めていることは以下のとおりである。

郡上観光のPR	○PRが一番だと思います。 ○不況のため、観光客誘致も厳しいと思う。合併したので、市全体のPRが必要です。 ○郡上は自然、水と緑が美しい町のイメージを全国に発信（PR）し、誰もが一度は行ってみたいまた来たいというまちにしたい。 ○郡上市内の各地域の主な観光地、主なイベント等を紹介した総合的なパンフレットを作成し各地に配布し、インターネットを活用し関連した所とリンクする。
---------	--

まちづくり	○道に歩道と車道の区分が無いので危険です。道路の石の模様がとても危ない、下駄で足をひねったお客もいるし、年寄りや障害者に不親切だ。八幡はお年寄が多い、お年寄りにやさしい町にしてほしい。 ○八幡は夏だけで、冬はほとんどがダメ。温泉も無いから他の地域へいってしまう。道の駅も八幡には無い、皆を町に集める仕掛けが必要です。
もてなしの ところ	○地域ぐるみのもてなし、心の対応、町ぐるみの美化活動により独特の雰囲気のあるまちづくりに取り組む。 ○施設が新しくても接客がまずければダメ、基本はおもてなしだと思います。まち全体で、「心のこもったもてなし」をすることに、取り組むことが大切です。 ○町の観光と宿泊は違います。町の中に観光客がいても宿泊はほとんどない。人をひきつける何か(真心の接待)が必要だと思います。課題は常連客を増やすことです。
宿づくり	○自分のポリシーを如何に確立して具現化してゆくか。そして（民宿の）独自性をだしてゆくことが必要だと思います。 ○郡上でしか体験できない地域性を生かし、お客さまとの対話を大切にし、何かテーマをつくり、顧客が来宿目的を考え、「癒しの里」のような滞在型民宿はどうでしょう。
参加型観光	○白鳥の清流と緑豊かな自然の景色を、ウォーキング・ハイキング・トレッキング・サイクリング等のコースやその他のスポーツレクリエーションを企画し、イラストマップなどを作ってコースを選びお客様にお知らせする。 ○中高年の方の山歩きを多くアピールしたい、山の本（新ハイキング）の出版社に石徹白付近の山を紹介してほしい。（野伏、大杉、別山大日、別山毘沙門岳） ○民宿、旅館等の農地を利用したグリーンツーリズムの推進を図り、夏場の利用客を増やす(例. 郡上一円を考えてコースを設定する)。 ○年間を通じてお客さんに楽しんでもらえるレジャーやイベント、体験メニューが必要です。
まちの活 性 化 組 織 づ く り	○八幡町は水のまちです。お客様は本物志向です。後継者難が深刻、閉店に追い込まれる商店や現存する空き家などが、まちを衰退させてしまう。商店主が元気でかつ若い人が新しいアイデアを出し合える場を増やし安心して暮らせる町にすることだと思う。 ○地域にやる気があまり見られない。一生懸命やれば何とでもなります。 ○地域エリア全体の団結とグレードアップに取り組む努力をする。

5. 観光客（おどり参加者）の意識調査

調査方法：①郡上観光客（郡上おどり参加者）に対する聞き取り調査

②白鳥観光客（白鳥おどり参加者）に対する聞き取り調査

調査日時：平成16年8月14日

調査数：八幡町 168名

白鳥町 70名

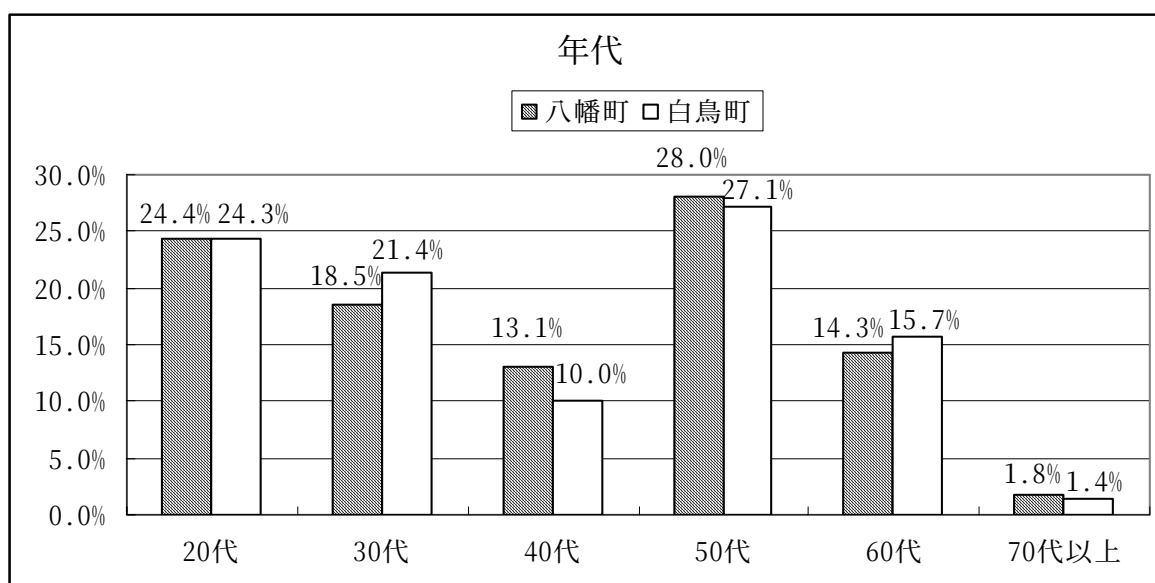
郡上おどり、白鳥おどり参加者の実態が把握できる。

(

1) 観光客（おどり参加者）の属性

① 年代

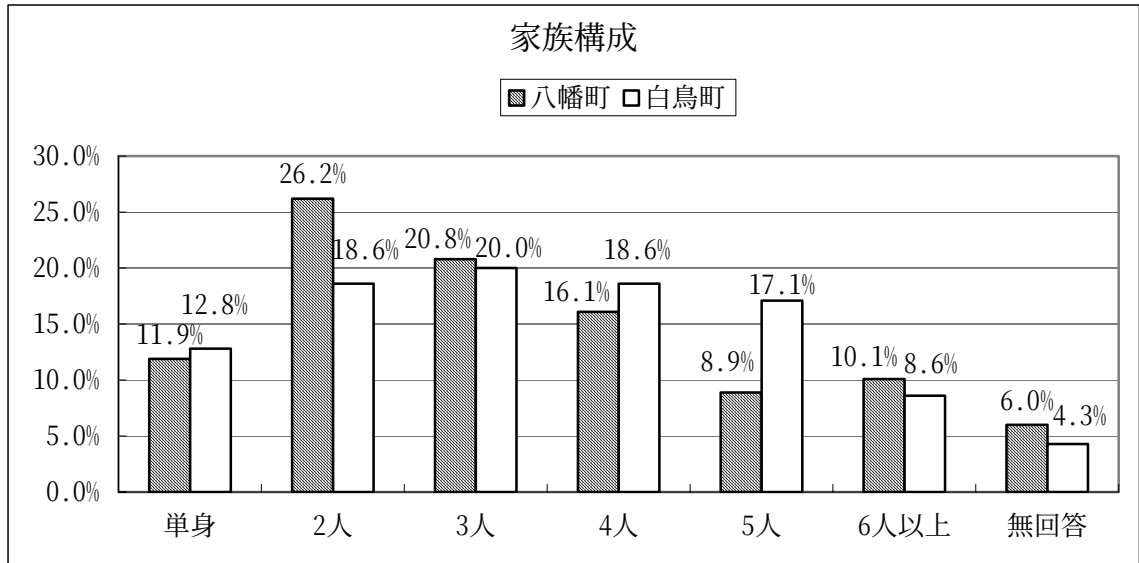
年代間の構成比は、郡上おどり参加者と白鳥おどり参加者の間では近似している。50代の参加者が最も多く（八幡町 28.0%、白鳥町 27.1%）、次いで20代の参加者が多い（八幡町 24.4%、白鳥町 24.3%）。30代40代は20代に比べやや少ないが、60代は40代に比べて微増している。



② 家族構成

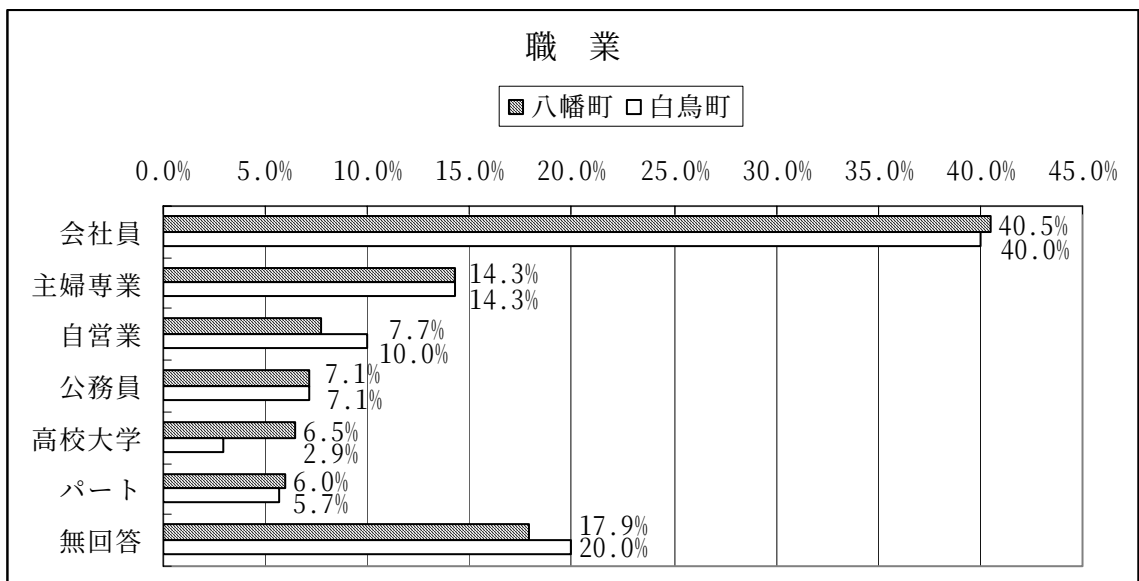
郡上おどり参加者の家族構成は「2人」26.2%で、「3人」20.8%、「4人」16.1%、「5人」8.9%で小人数家族の参加が多い。

白鳥おどり参加者の家族構成は「3人」20.0%、「2人」と「4人」が各々18.6%、「5人」17.1%で家族構成の2人～5人の比率がほぼ等しく、4人と5人の比率は郡上おどり参加者より高くなっている。



③ 職業

郡上おどり参加者、白鳥おどり参加者の職業は、ほとんど同一の構成比で「会社員」が最も多く（八幡:40.5%、白鳥:40.0%）、次いで「主婦専業」は八幡、白鳥各々14.3%で、以下「自営業」「公務員」「学生」「パート」の順である。

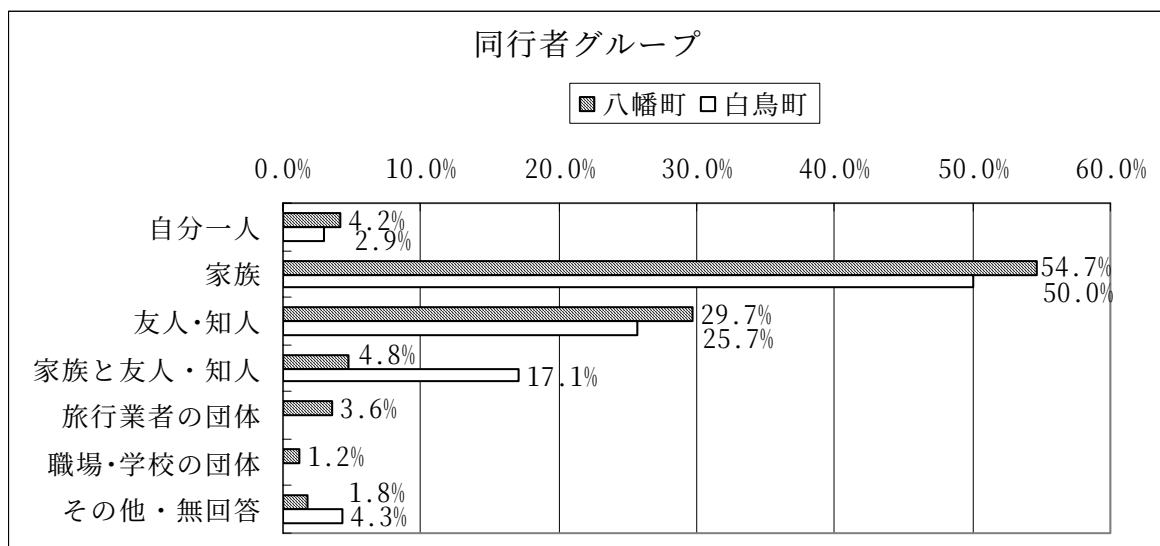


④ 同行者グループ

郡上おどり参加者は、「家族」が 54.7%と最も多く、次いで「友人・知人」29.7%、「家族と友人・知人」4.8%である。

白鳥おどり参加者は、「家族」50.0%、「友人・知人」25.7%、「家族と友人・知人」17.1%であり、「家族と友人・知人」は郡上おどり参加者より多い。

全体では、団体の観光客は少なく、少人数グループの観光客が多い。



年代別のグループの割合（参加者全体に占める割合）は、50代が26.5%と最も多く、次いで20代が24.4%、以下30代、60代、40代の順となっている。

その内訳をみると、20代は「友人・知人」が16.4%で最も多いのに比べ、他の世代（30～60代）は「家族」との同行が多く20代とは対照的である。

年代別のグループ（比率は参加者全体に占める割合）

	家族	友人・知人	家族と友人・知人	自分一人	旅行業者の団体	職場・学校の団体	その他・無回答	合計
20代	6.3%	16.4%	0.8%		0.4%		0.4%	24.4%
30代	13.0%	2.1%	2.1%	0.4%	0.4%	0.8%	0.4%	19.3%
40代	8.8%	2.1%	0.4%	0.8%			1.3%	13.4%
50代	16.0%	4.6%	3.8%	1.3%	0.8%			26.5%
60代	8.0%	3.4%	0.8%	1.3%	0.8%		0.4%	14.7%
70代～	1.3%		0.4%					1.7%
合計	53.4%	28.6%	8.4%	3.8%	2.5%	0.8%	2.5%	100.0%

⑤ 住所

観光客（おどり参加者）全体の県内と県外の割合は、県内 16.8%、県外 83.2%である。

県外計に対する各県の割合は、愛知が 46.5%(92 人)、大阪・兵庫・神奈川が各々5.6%(11 人)、東京 5.1% (10 人)、三重・京都・埼玉が各々4.0%(8 人)、奈良 3.5%(7 人)である。愛知が最も多く、次いで関西地方、関東地方である。県外観光客の宿泊の割合は、愛知の宿泊率 3 割強（観光客 92 名、宿泊者 30 名）、関西地方 5 割弱（観光客 37 名、宿泊者 17 名）、関東地方 8 割強（観光客 33 名、宿泊者 27 名）で遠距離からの観光客ほど宿泊率が高い。

観光客の住所

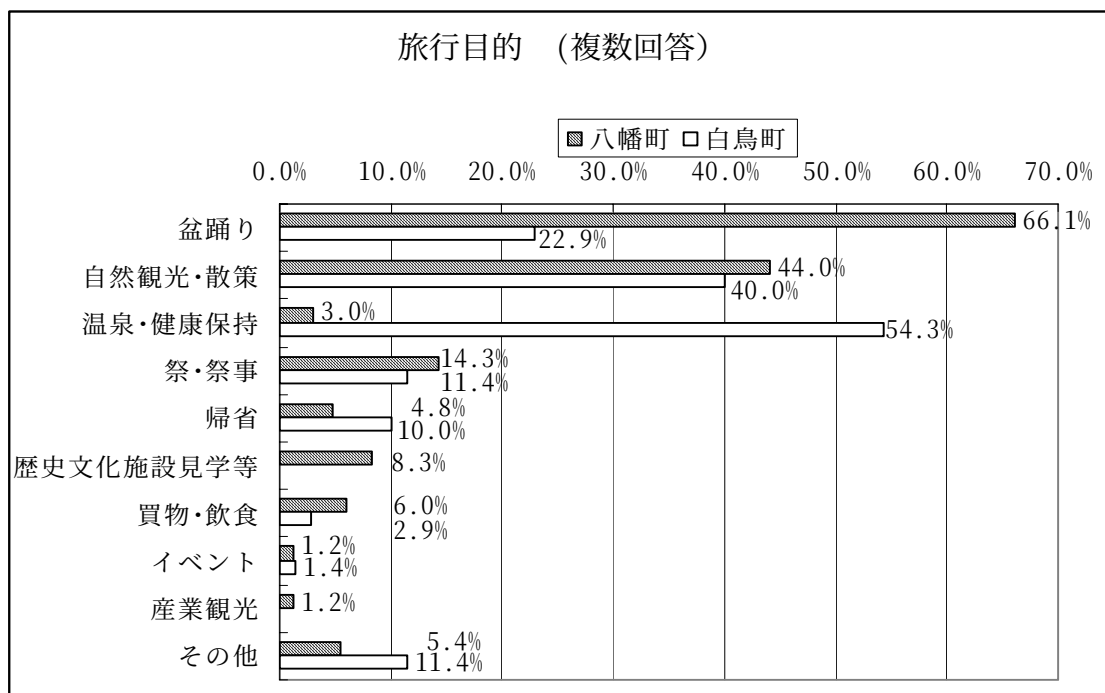
県内	八幡	白鳥	計	宿泊者	県外	八幡	白鳥	計	宿泊者
岐阜市	7 人	4 人	11 人	3 人	愛知	53 人	39 人	92 人	30 人
恵那市	1		1	1	三重	6	2	8	4
大垣市	1	2	3	1	静岡	4		4	2
各務原市		1	1		滋賀	2		2	2
可児市	2		2		石川	3	1	4	3
郡上市	1		1	1	福井		2	2	1
下呂市		1	1		富山	1	2	3	1
関市	2		2	2	長野	1		1	
多治見市	3	1	4	1	大阪	9	2	11	5
土岐市	1		1		京都	8		8	5
羽島市	1		1		兵庫	11		11	4
飛騨市		1	1		奈良	7		7	3
瑞穂市		1	1	1	東京	10		10	9
美濃市		1	1	1	千葉	2	1	3	1
美濃加茂市	3	1	4		神奈川	7	4	11	9
山県市	1		1		埼玉	8		8	7
谷汲村		1	1	1	山梨	1		1	1
その他県内	1	2	3		福岡	1		1	
					秋田	1		1	
					北海道	1		1	1
					その他県外	8	1	9	5
岐阜県計	24 人	16 人	40 人	12 人	岐阜県外計	144 人	54 人	198 人	93 人
	10.1%	6.7%	16.8%	5.0%		60.5%	22.7%	83.2%	39.1%

(2)観光客（おどり参加者）の特徴

① 旅行目的

郡上おどり参加者は、「盆踊り」66.1%、「自然観光・散策」44.0%、「祭・祭事」14.3%で郡上おどりを目的とする参加者が最も多く、自然観光・散策が続いている。

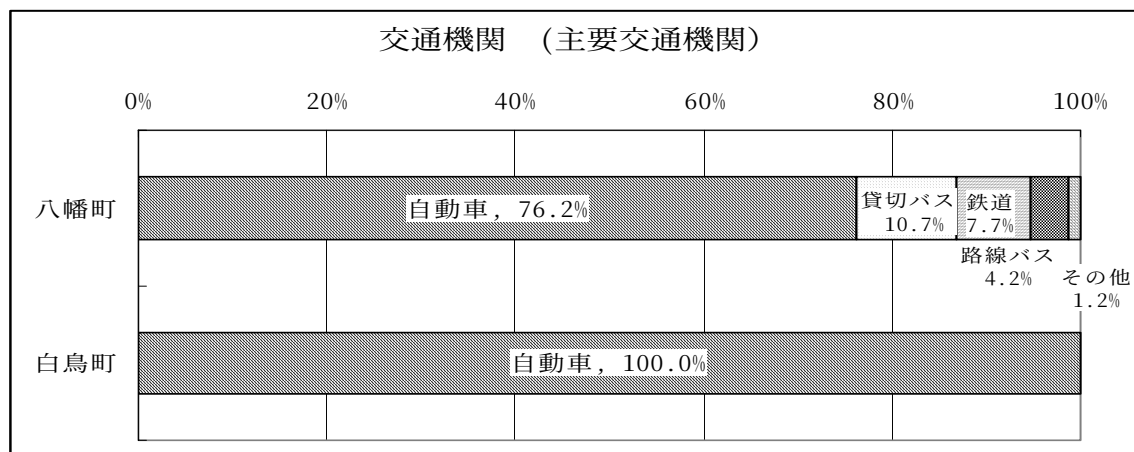
白鳥おどり参加者は、「温泉・健康保持」54.3%で、「自然観光・散策」40.0%、「盆踊り」22.9%で、温泉や健康を目的とする観光客が多く、自然観光・散策、盆踊りの順で、白鳥おどりよりも、温泉・健康や自然観光・散策を目的とする参加者が多い。



② 交通機関(主要交通機関)

郡上おどり参加者は、「自動車」が76.2%で四分之三以上を占め、それ以外は「貸切バス」10.7%、「鉄道」7.7%、「路線バス」2.9%である。

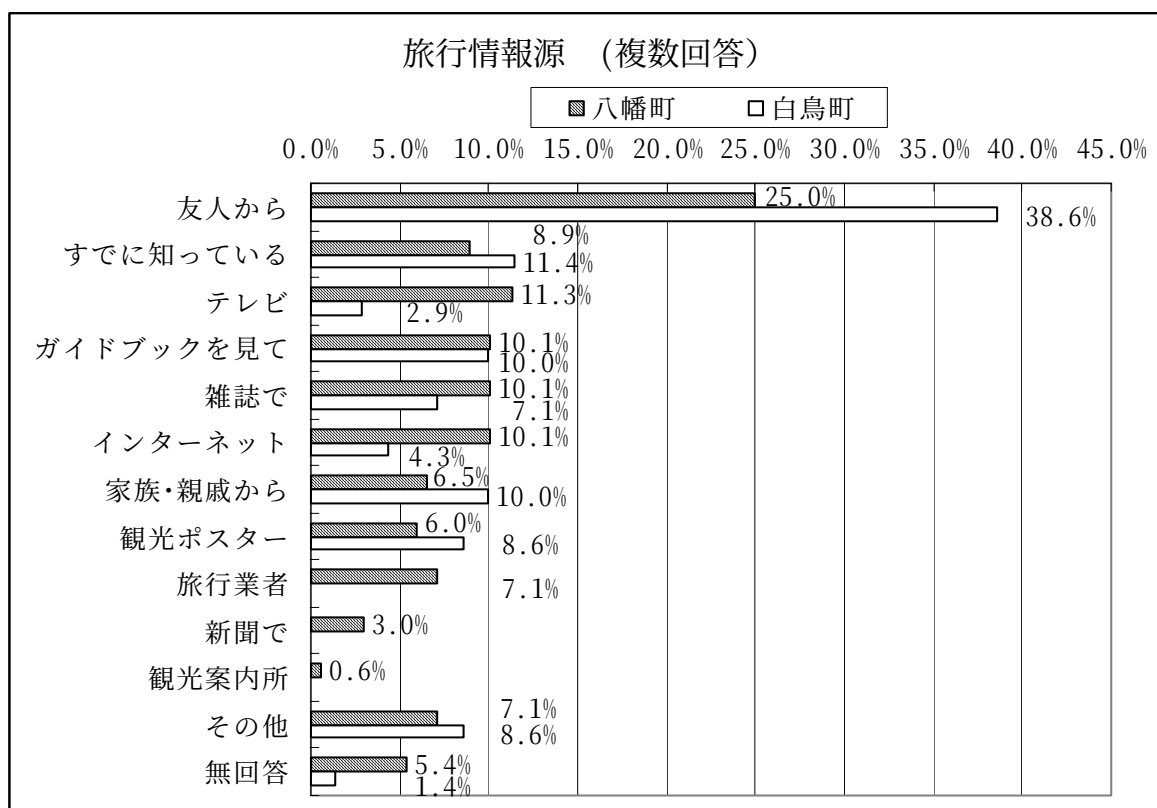
白鳥おどり参加者は、「自動車」が100.0%である。



③ 旅行情報(複数回答)

郡上おどり参加者は、「友人から」が25.0%で最も多く、以下「テレビ」11.3%、「ガイドブックを見て」「雑誌で」「インターネット」が各10.1%である。

白鳥おどり参加者は、「友人から」38.6%、「すでに知っている」11.4%、「家族・親戚から」10.0%で、その割合は八幡より高い。これに対し「テレビ」「雑誌で」「インターネット」の割合は八幡より少ない。



(3) 日帰り客と宿泊客

① 日帰り客と宿泊客の割合

日帰り客と宿泊客の割合は、日帰り客 55.9%、宿泊客 44.1%で日帰り客が宿泊客より多い。

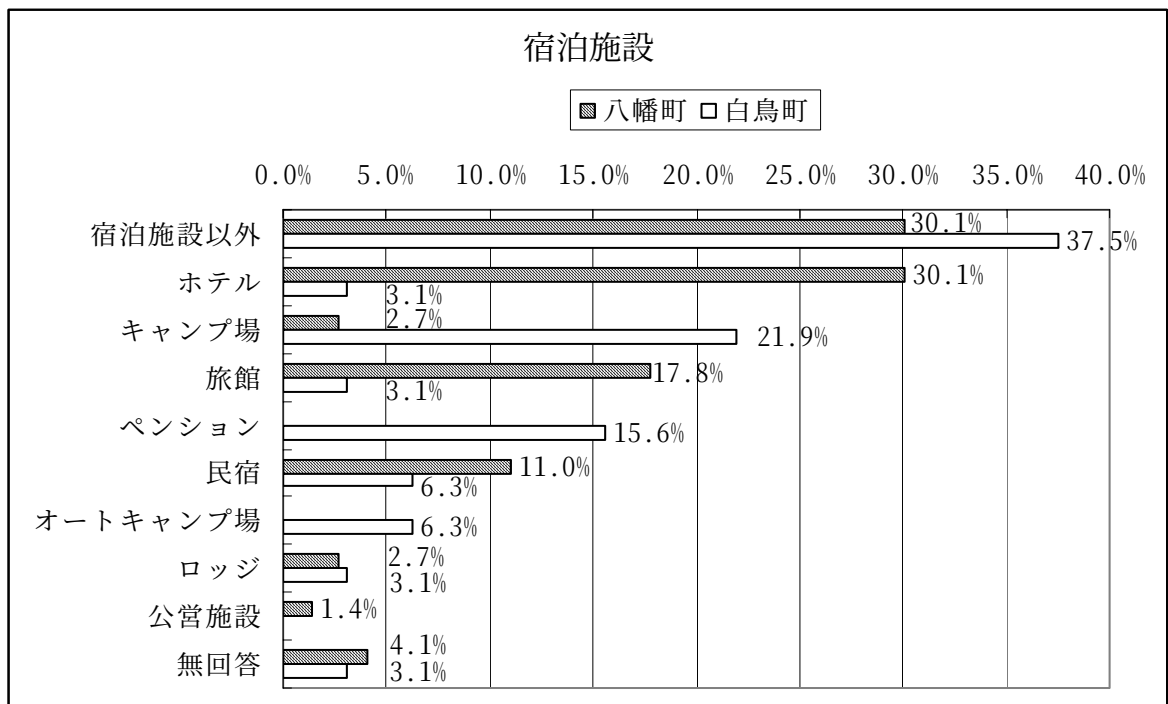
日帰り客は、県内、愛知県に多くその割合は日帰り客全体の7割弱に達する。

郡上おどり参加者の宿泊は43.5%で、白鳥おどり参加者の宿泊は、45.7%である。

② 宿泊施設

宿泊は宿泊施設以外の親・親戚・知人等が多い。宿泊施設の宿泊先の内訳をみると、郡上おどり参加者の宿泊先は、「ホテル」が30.1%で最も多く、続いて「旅館」17.8%、「民宿」11.0%で、「キャンプ場」、「ペンション」の利用者は少ない。

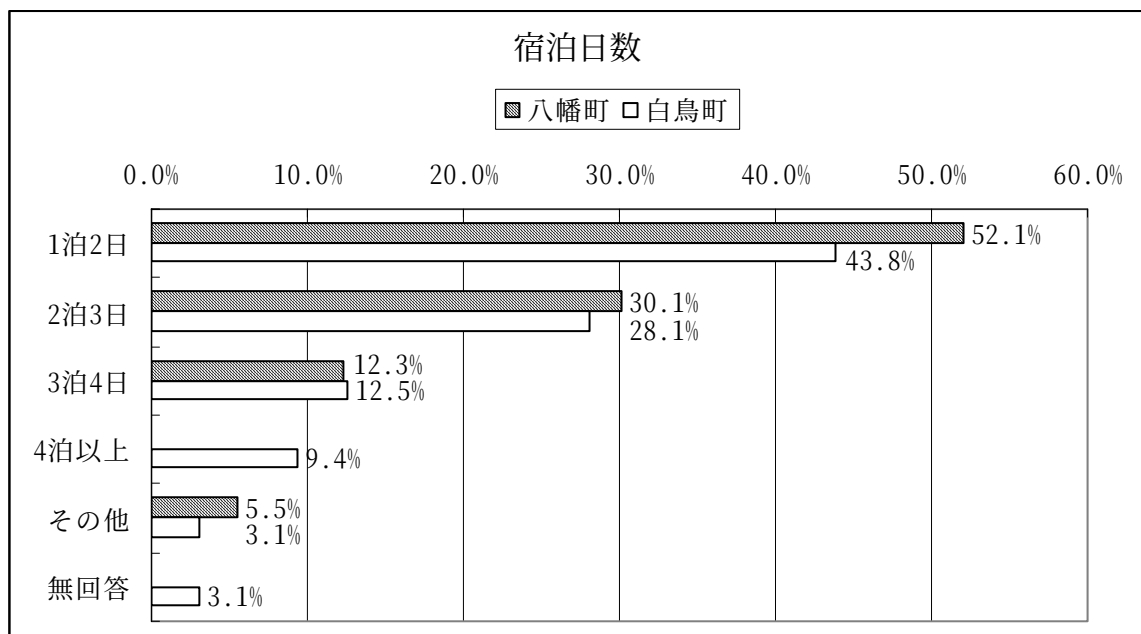
白鳥おどり参加者の宿泊先は、「キャンプ場」が21.9%、「ペンション」が15.6%で、「ホテル」、「旅館」、「民宿」の利用者は少ない。



③ 宿泊日数

郡上おどり参加者は、「1泊2日」が52.1%であるが、「4泊以上」はなく、短期滞在の観光客が白鳥観光客より多い。

白鳥おどりの参加者は、郡上おどりの参加者より若干滞在期間が長く「4泊以上」が9.4%である。

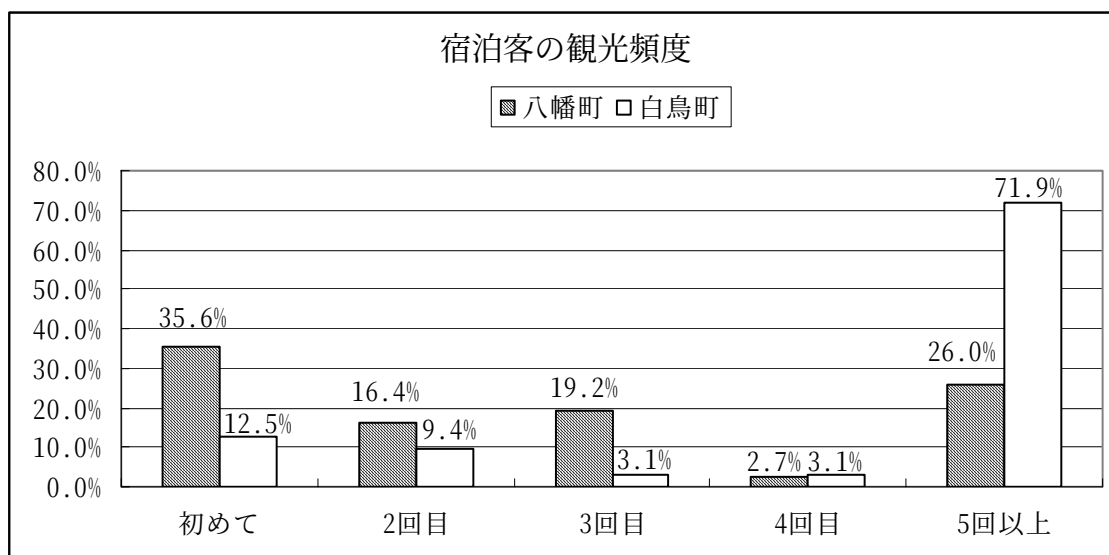


④ 観光頻度

1) 宿泊者の観光頻度

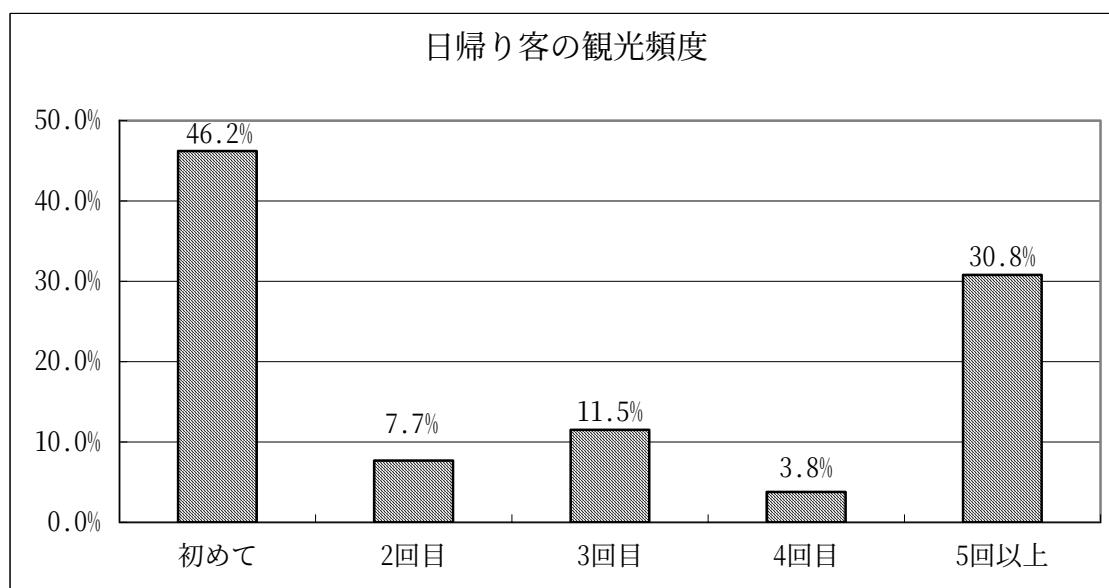
郡上おどり参加者は、「初めて」が35.6%で最も多く、続いて「5回以上」26.0%、「2回目」16.4%、「3回目」19.2%で、初めての人でもそのほとんどが、「また来たい」といっている。

白鳥おどり参加者は、「5回以上」が71.9%で最も多く常連客として固定化している。その外は、「初めて」12.5%、「2回目」9.4%、「3回目」「4回目」は各々3.1%である。

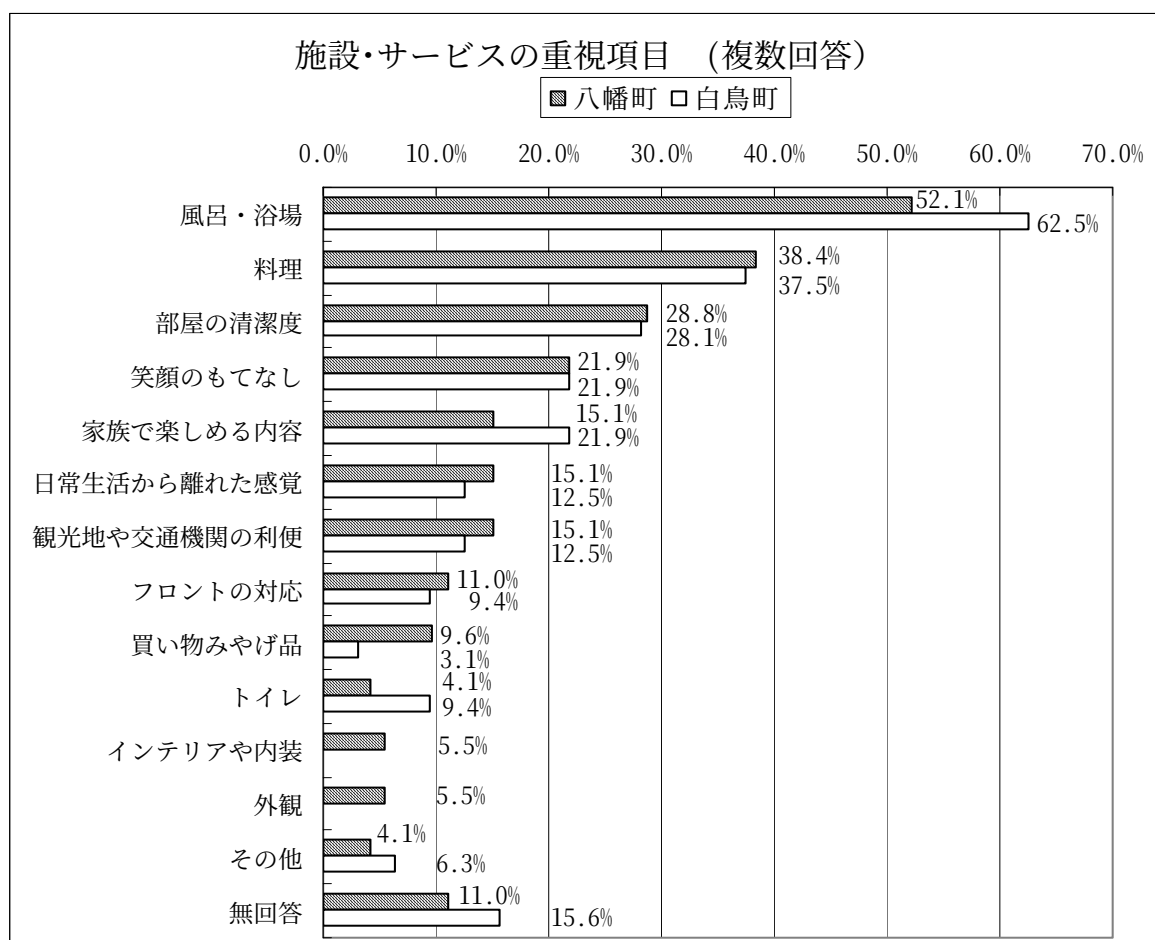


2) 日帰り客の観光頻度

日帰り参加者の観光頻度は、「初めて」の観光客が46.2%で最も多い。次いで「5回以上」が30.8%である。



⑤ 施設・サービス重視項目



宿泊先のサービスや施設で重視していることは、「風呂・浴場」が最も多く（八幡：52.1%、白鳥：62.5%）特に白鳥おどり参加者は、「温泉・健康保養」を目的としている人が多い。

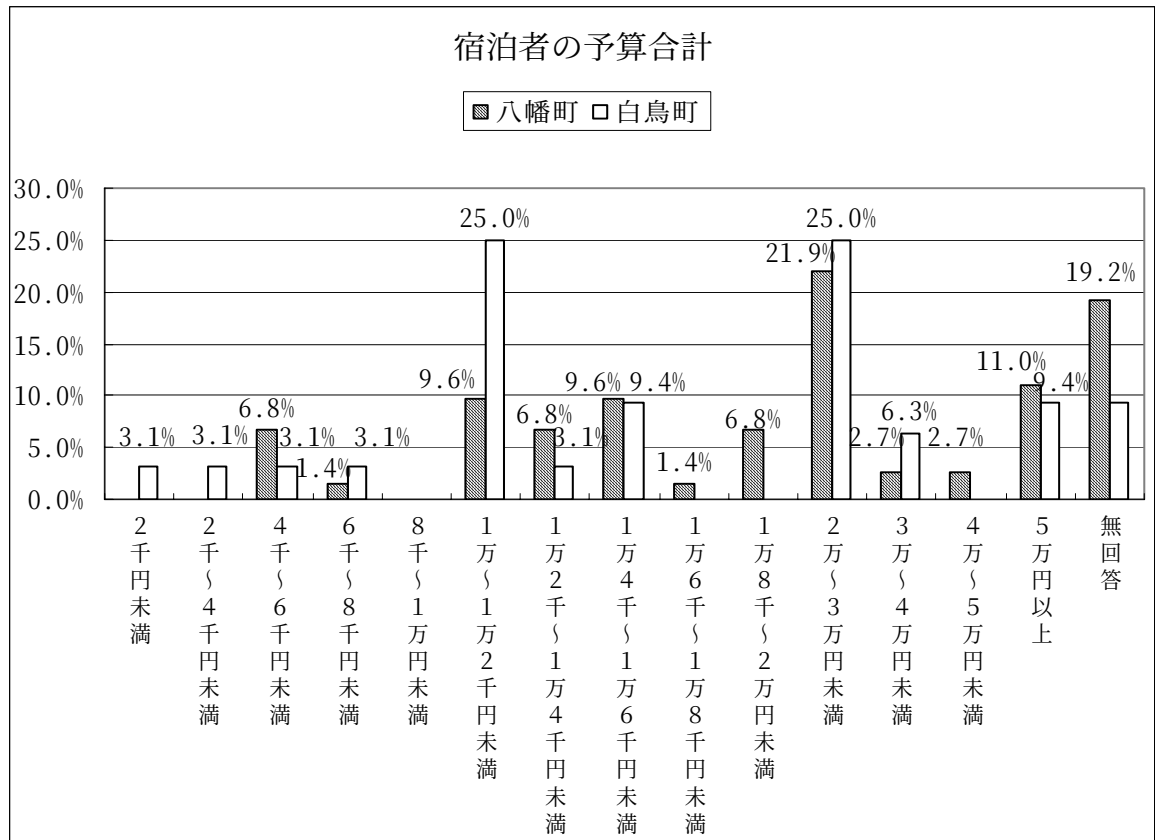
次に重視していることは、「料理」（八幡：38.4%、白鳥：37.5%）、「部屋の清潔度」（八幡：28.8%、白鳥：28.1%）、「笑顔のもてなし」（八幡：21.9%、白鳥：21.9%）である。「家族で楽しめる内容」は、白鳥：21.9%、郡上：15.1%で白鳥おどり参加者が多い。

⑥ 旅行予算

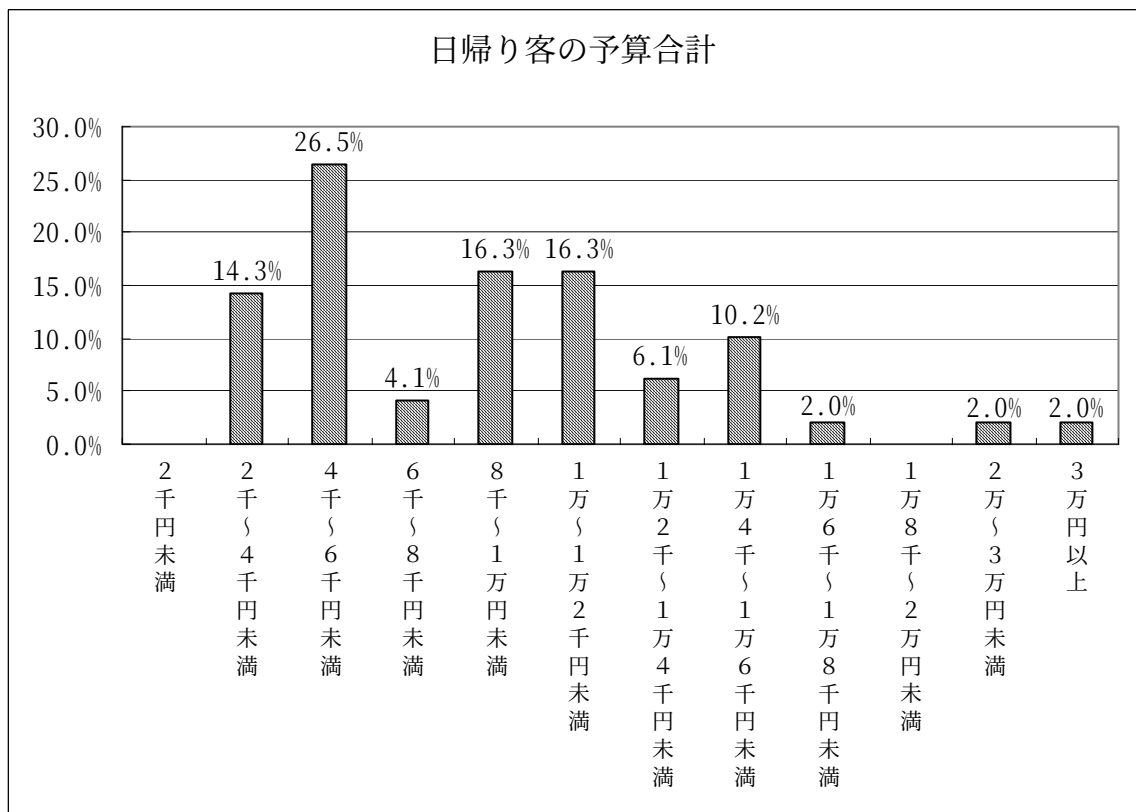
1) 予算合計

郡上おどり参加宿泊者の旅行予算合計は、「10,000～19,999 円」が 34.2%（1 万円台の合計）が最も多く、「20,000～29,999 円」21.9%、「50,000 円以上」11.0%である。

白鳥おどり参加宿泊者の旅行予算合計は、「10,000～19,999 円」が 37.5%（1 万円台の合計）が最も多く、「20,000～29,999 円」25.0%、「50,000 円以上」9.4%である。



日帰り客の旅行予算合計は、「4,000～5,999 円」が 26.5%と最も多く、「8,000～9,999 円」「10,000～11,999 円」が各々 16.3%である。



2) 宿泊費

宿泊費(宿泊施設内の飲食費を含む)の予算は、「15,000 円未満」が全体の 8 割弱である。ホテルは「10,000～14,999 円」が、旅館は「10,000～24,999 円」が、民宿は「5,000～9,999 円」が最も多い。その他はキャンプ場(5,000 円未満)やペンションである。

宿泊費

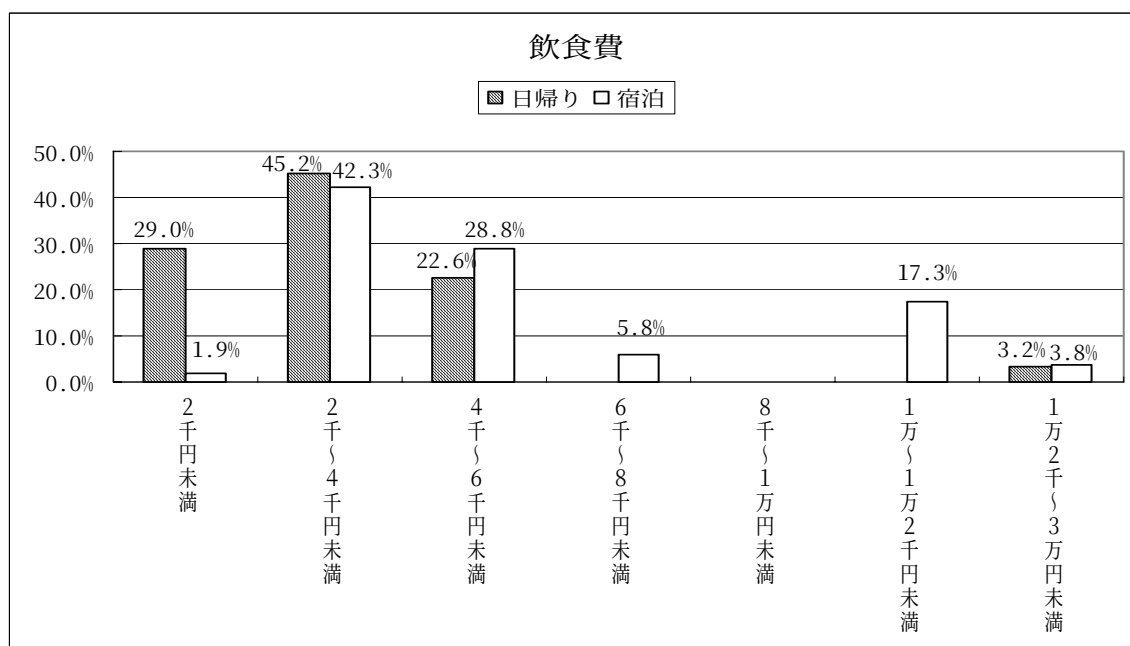
	ホテル	旅館	民宿	その他	計
5,000 円未満				5	5 (11.4%)
5,000～9,999 円	2		4	5	11 (25.0%)
10,000～14,999 円	12	3	1	3	19 (43.2%)
15,000～19,999 円		2	1		3 (6.8%)
20,000～24,999 円		3			3 (6.8%)
25,000 以上	1	1	1		3 (6.8%)
計	15 人	9 人	7 人	13 人	44 人(100.0%)

3) 飲食費

宿泊施設以外の飲食費の予算について、日帰り客は、「2,000～3,999 円」が 45.2%で最も多く、次いで「2,000 円未満」29.0%、「4,000～5,999 円」22.6%の順である。

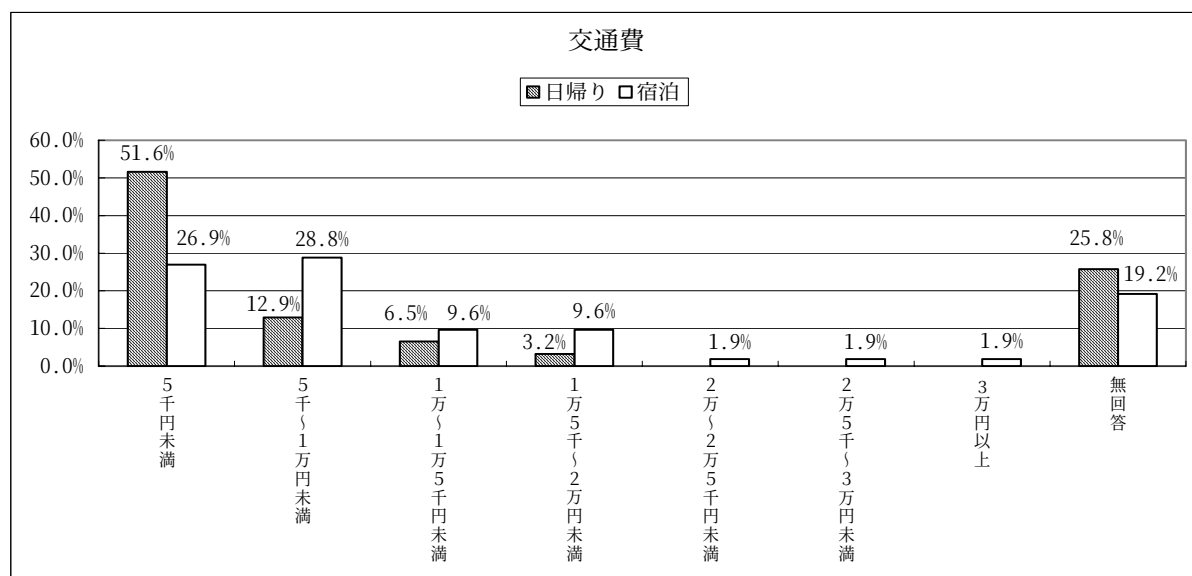
宿泊客は、「2,000～3,999 円」42.3%が最も多く、次いで「4,000～5,999 円」28.8%、「10,000～11,999 円」17.3%の順である。

日帰り客の飲食費は、宿泊客より低く、宿泊客の飲食費は、滞在期間等から 1 万円を超える観光客が 2 割強を占めている。



4)交通費(ガソリン代、高速料金、レンタル料を含む)

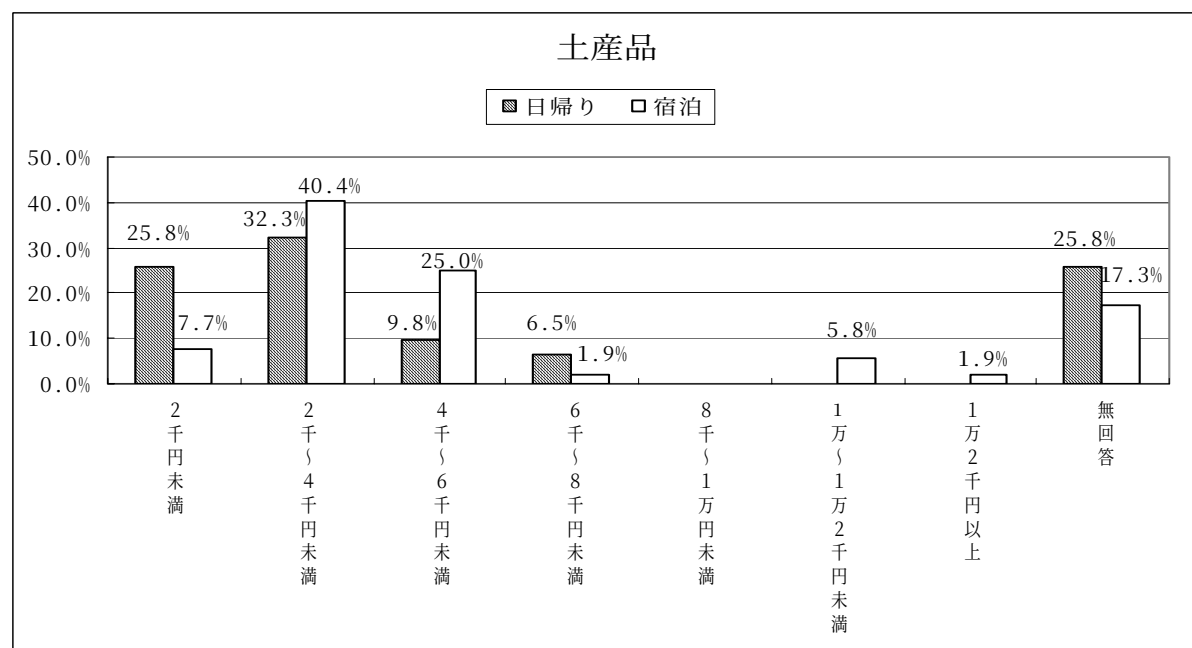
交通費の予算について、日帰り客は、「5,000 円未満」が 51.6%で最も多く、次いで「5,000～9,999 円」12.9%、「10,000～14,999 円」6.5%である。宿泊客は、「5,000～9,999 円」28.8%、次いで「5,000 円未満」26.9%、「10,000～14,999 円」、「15,000～19,999 円」が各々9.6%である。全体では、「5,000 円未満」は日帰り客が多く、「5,000 円以上」は宿泊客が多い。



5)土産品

土産品の予算について、日帰り客は、「2,000～3,999 円」が 32.3%で最も多く、次いで「2,000 円未満」25.8%、「4,000～5,999 円」9.8%である。宿泊客は、「2,000～3,999 円」40.4%が最も多く、次いで「4,000～5,999 円」25.0%、「2,000 円未満」7.7%である。

「2,000 円未満」は日帰り客の方がが多く、「2,000～5,999 円」は宿泊客の方が多い。



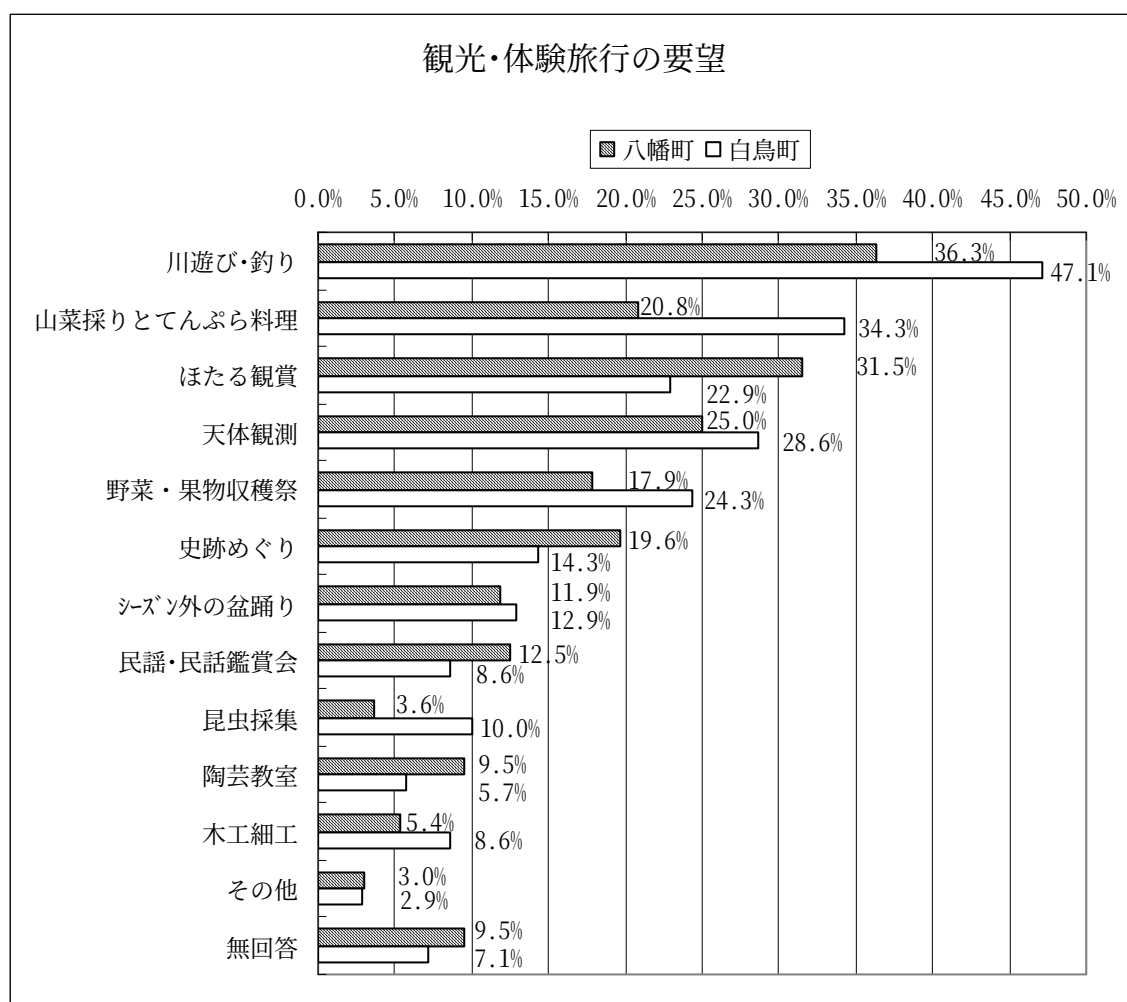
(4) 観光客ニーズの動向

① 観光・体験旅行の要望

郡上で観光・体験旅行であったらよいと思うものとして、郡上おどり参加者は「川遊び・釣り」を 36.3%が希望し、「ほたる鑑賞」31.5%、「天体観測」25.0%、「山菜採りとてんぷら料理」を 20.8%が希望している。

白鳥おどり参加者は「川遊び・釣り」を 47.1%が希望し、「山菜採りとてんぷら料理」34.3%、「天体観測」28.6%、「野菜・果物収穫祭」24.3%、「ほたる鑑賞」を 22.9%が希望している。

地域全体では、「川遊び・釣りやホテル鑑賞」で川を中心とした癒し系が多く、次に多いのは、「食」への要求と「星空」の観察体験である。また、史跡めぐり、シーズン外の盆踊り、民謡・民話鑑賞会、昆虫採集、陶芸教室等への要求もある。



② リピートの動き

全体の 96%が「また来たい」と思っている。これは郡上観光が参加者に支持されていることを示している。

③ また来たい理由と意見

参加者が、また来たいといっている理由、すなわち郡上観光の強みは、以下の通りである。

1)観光客の「行動」の変化

盆おどりや川遊び等、“参加・創作によるより深い楽しみ・気持ちよさ”の欲求によるもの。

おどり 21件	☐ 盆踊りは楽しい、とにかく楽しいから。(14件) ☐ 盆踊りがしたい・参加したい。(2件) ☐ 自分のふるさとに盆踊りが無くなった。 ☐ 徹夜踊りができる。(2件) ☐ 郡上おどり・白鳥おどりに参加できる。 ☐ 夏の夜祭りが好き。
あそび 川遊び 5件	☐ シャワークライミング体験がしたい。 ☐ 飛び込み体験は他の地域では味わえない。 ☐ 鮎釣りができる。 ☐ 子供と一緒に飽きずに楽しく遊べる場所が多い。 ☐ もっと、ゆっくり遊びたい。
スキー キャンプ 2件	☐ スキーができる。 ☐ キャンプができる。
小 計 28件	

2)生活の中での「旅の位置づけ」の変化（「駆け足型から滞在型」）

やすらぎ・癒しによる“ちょっといい暮らし”から“もっと豊かな暮らし”への欲求によるもの。

居心地 (自然関連) 27件	☐ 自然が美しく(水がきれい・自然がきれい)、豊かで居心地がいい(3件) ☐ 自然が一杯で、ゆったりしている(3件) ☐ のんびりでき、過ごしやすい ☐ 静かで落ちつく、静寂性(3件) ☐ 川がきれい(3件) ☐ 水がきれい(9件) ☐ 空気がきれい(2件) ☐ 森林が多い ☐ 涼しい(2件)
----------------------	---

提 言 編

第3章 郡上市を取り巻く環境変化と課題

1. 郡上市観光の外部環境の把握

(1) 郡上市観光の有利な条件

① 自然環境

- ◇ 郡上市は日本のほぼ中央に位置し、人口の重心地であった
- ◇ 長良川をはじめ1級河川が24本も流れ、美しく豊かな水に恵まれている
- ◇ 白山国立公園をはじめ緑豊かな山林が総面積の約9割を占め山紫水明の地である

② 交通条件

- ◇ ほぼ完成の東海北陸自動車道と中部縦貫自動車道の高規格幹線道路により、中部圏に加えて首都圏・関西圏とも短時間で結ばれる

(2) 郡上市観光の不利な条件

① 人口

- ◇ 総人口は平成16年4月1日現在49,719人で、減少傾向にある
- ◇ 増加が続いていた世帯数も近年減少傾向に転じている
- ◇ 総人口に占める65歳以上の高齢化比率は上昇している
- ◇ 就業者人口は第3次産業就業者が増加傾向にあるものの、第1次、第2次産業就業者は減少し就業者総数としても減少傾向にある

② 交通条件

- ◇ 鉄道は長良川鉄道があるが運行便数が少なく、利便性が低い。しかし清流長良川に沿って走る車窓からの眺めは誠に素晴らしい
- ◇ 広域交通網としての路線バスもその利便性はやや低い。とりわけ郡上市内の各ブロック間の移動はマイカーに依存せざるを得ない

2. 郡上市観光の内部環境の把握

(1) 郡上市の長所と短所

① 観光資源に関するもの

<八幡ブロック>

- ◇ 清流吉田川と郡上踊りに代表される固有の歴史文化を誇る城下町
- ◇ 城山公園に「山内一豊と妻の像」がある。一豊の妻千代は郡上城主遠藤家の出身といわれ、2006年のNHK大河ドラマ化が決定している
- ◇ 越中八尾の風の盆が観光客に見せる踊りであるのに対して、郡上踊りは観光客が参加するもので参加者にとって満足感が高い
- ◇ 町内を流れる「いがわ小みち」や古い町並みはしっとりとした風情を感じさせる

<高鷲ブロック>

- ◇ 「白山国立公園ひるがの高原」を有する分水嶺のある高原地帯である
- ◇ 日本一の清流長良川の源流に位置する。まさに豊かな水と緑の地である
- ◇ 冬季はダイナランド、鷲ヶ岳スキー場、高鷲スノーパーク、ひるがの高原スキー場、ホワイトピアたかす、郡上高原スキー場がありスノーボードなどウィンタースポーツのメッカとなり年間125万人のスキーヤーが訪れる
- ◇ 温泉：湯の平温泉、ふたこえ温泉、鷲ヶ岳温泉、牧歌の里温泉

<白鳥ブロック>

- ◇ 白山の緑と長良川・石徹白川などの清流をはじめ豊かな自然に恵まれ、夏は釣りファン、冬はスキーヤーで賑わう
- ◇ 長滝白山神社・長滝寺、白山仲居神社、石徹白の大杉、阿弥陀ヶ滝など観光の名所が豊富である
- ◇ 良質な雪に恵まれるウイングヒルズヒルズ白鳥リゾート、白鳥高原スキー場、イトシロシャーロットタウン、スノーパークしらお、油坂スキーパークのスキーヤーは年間40万人を超える
- ◇ 温泉：美人の湯しろとり、桜の湯白鳥、石徹白温泉

<大和ブロック>

- ◇ 「古今伝授の里」をキーワードに短歌による町づくりを進めている
- ◇ 古今伝授の里フィールドミュージアム、道の駅古今伝授の里やまと
- ◇ 温泉：やまと温泉、母袋温泉

＜明宝ブロック＞

- ◇ 明宝は山と川に囲まれ、夏は高原音楽祭、冬はめいほうスキー場に人気がある。
- ◇ 磨墨の里公園（道の駅 明宝）、明宝ハムなどで知られる
- ◇ 温泉：明宝温泉

＜和良ブロック＞

- ◇ 特別天然記念物「オオサンショウウオ」が生息するのどかな山里。
- ◇ 和良川公園オートキャンプ場、運動公園。念興寺「鬼の首」
- ◇ 特産品は自然がはぐくんだおばばのわさび漬けなど豊富である

＜美並ブロック＞

- ◇ 「日本まん真ん中」の人口重心の近くに位置し、円空生誕の地として知られる
- ◇ 奥長良県立自然公園の一角でラフティングやカヌーが楽しめる
- ◇ 温泉：日本まん真ん中温泉

② 組織運営

- ◇ 平成16年3月1日に郡上市が誕生したので7つの観光協会で「郡上市観光連盟」を結成した

③ 宿泊施設等の経営

- ◇ 個人経営が76.8%（内訳：内専業36.1%、兼業40.7%）で兼業者が多い
- ◇ 経営者の7割以上が50歳以上で高齢化している
- ◇ 後継者が決まっているのは3割強である
- ◇ 経営上の問題点は「利用者の減少」と「施設の老朽化」である
- ◇ 宿泊客の利用状況では1泊2日と2泊3日が多い
- ◇ 誘客対策の1位に「地場産品による郷土料理の開発」を挙げている
- ◇ 民宿の誘客対策、PR活動の強化
- ◇ お年寄りにやさしい町と、町にお客を集める仕組み
- ◇ まち全体で「心のこもったもてなし」
- ◇ 地域性を生かし郡上でしか体験できない宿

(2) 観光客（踊り参加者）

① 八幡町・白鳥町の長所

- ◇ 盆おどりは楽しい、とにかく楽しい
- ◇ 水と自然がきれいで、豊かで居心地がよい

- ◇ 自然が一杯で、ゆったりしている
- ◇ 近くに温泉がある
- ◇ 第2のふるさと、土地の人の人情、もてなしがよい
- ◇ 町並みが美しいから町を散策したい
- ◇ 初めての客も半数近くあり、同時に5回目以上の参加者も3割強と多い
- ◇ 参加者の殆どが「また来たい」と思っている

② 八幡町・白鳥町の短所

- ◇ 日帰りが6割弱で、宿泊が少ない
- ◇ 宿泊客の予算合計は「1～1万2千円」と「2～3万円」にピークが見られたが、日帰り客の予算合計は、「4～6千円」が多い

③ 郡上市について興味や体験したいこと

- ◇ 八幡の参加者は「川遊び・釣り」「ほたる鑑賞」「天体観測」「山菜採りとてんぶら料理」、白鳥の参加者は「川遊び・釣り」「山菜採りとてんぶら料理」「天体観測」の順序であった

④ 施設、サービスへの希望

- ◇ 宿泊先の施設で重視していることは「風呂・浴場」が第1位であった
- ◇ 次いで「料理」
- ◇ 3位は「部屋の清潔度」であった



3. 郡上市観光の特徴づくり

(1)郡上市にしかない文化と歴史、自然と風土等、そしてその町から生れた技や芸術、そうしたわが町の宝や伝統を徹底的に掘り起こすことである。それには、外部の人や地元出身で現在はい他地域で活躍している人の意見に耳を傾ける姿勢が必要である。

(2)域特性を外部にアピールするための創意工夫が重要である。

(3)住民参加で、いかに地域全体が一丸となって「わが町を活性化しよう」と本気で取り組む事が大切である。

観光は、地域住民が心からわが町の誇りを正しく認識し、一人でも多くの人にその素晴らしさを感じて欲しいと思うところから始めることが望ましい

観光の特徴づくりのために活用すべきファクター

○ 国の重要無形民俗文化財の郡上踊り ○ 白山国立公園、長良川県立自然公園に属し四季を通じて、美しい自然とふれあえる ○ 八幡城、土佐藩主山内一豊の妻千代 ○ 白山信仰の里の貴重な文化財と史跡 ○ 良質な雪に恵まれたスキー場が多い ○ 温泉が市内の主なブロックに点在している ○ 東海北陸道、中部縦貫道の開通で広域からの集客が可能	○ 人口・世帯数ともに減少傾向 ○ 飛騨高山、白川郷は観光の先進地 ○ 宿泊を伴う滞在型・参加型観光客の不足 ○ イベントのPR不足 ○ 宿泊は1泊2日と2泊3日が多い ○ 観光のオフシーズンは、4月6月10月11月である
---	---



4. 観光の将来予測

(1) 国による行動計画の策定

- ◇ 平成 15 年 7 月、内閣官房及び国土交通省が中心となり「観光立国行動計画」がとりまとめられ、その第一項目が「21 世紀の進路『観光立国』の浸透」である

(2) ビジット・ジャパン・キャンペーン

- ◇ (1)の観光立国行動計画の第三項目「日本ブランドの海外への発信」に“トップセールス”と“ビジット・ジャパン・キャンペーン”が明記され実行に移されている
- ◇ 2010 年代にアジアに観光革命（ブーム）が起きるとの予測もある

(3) 美しい国土の創造に取り組む時代

- ◇ 森林維持の立場から山村生活者へ所得保障をしつつ山村を美しくすることでグリーンツーリズムを展開して、この地を訪れる都市住民との交流が求められる
- ◇ 自分の趣味を深め、自己を磨くための体験型観光が増加している

将来市場の予測

社 会 環 境 ○ 21 世紀の進路「観光立国」の浸透 ○ ビジット・ジャパン・キャンペーンの P R 2010 年代アジアに観光革命の起きる予測も ○ 美しい国土の創造に取り組む時代	都市市民（国内）のニーズ ○ 旅行の主流は高齢者になる ○ 旅行弱者と熟年高齢者への配慮 ○ 夫婦の旅行 ○ 温泉への指向は依然として強い ○ 旅館の多様化（宿泊・飲食）がすすむ ○ 見る観光から体験型観光へ ○ グリーンツーリズムをベースとした新型リゾート 例として「田園・牧場型リゾート」「探検型リゾート」
競 合 面 ○ 観光全体の魅力が決め手の時代 ○ スキー・テニスはブームが去り安定期	
ア ク セ ス 面 ○ 高速交通体系の整備による立地の平準化 ○ リニア・モーターカー	
都市市民の特性 ○ 小規模家族化の進展 ○ 高齢・少子化の進展	アジアの人のニーズ ○ 雪にあこがれを持つアジアの人々を対象にした国際的なスキーリゾート

5. 郡上市観光の課題

以上の外部環境調査、アンケート調査、実態調査 及び将来予測を踏まえ活性化への実践課題を次のように設定する。

基 本 的 課 題

- 観光客受け入れのための環境整備
- 誘客のための観光資源開発
- 地域観光情報の発信

事 業 化 課 題

- 宿泊施設の整備
- 個性豊かな郷土料理の開発及び飲食施設整備
- 特産品開発のサポート及び販売システムの構築
- 交通アクセスの整備
- ユニバーサルデザインによるまちづくり
- 点から面による整備
- 遊歩道・自然景観の整備
- 歴史や個性豊かな伝統郷土文化を生かした観光推進
- 豊かな自然を生かした観光推進
- 古い町並みを生かした観光推進
- 既存の「各種体験メニュー」による交流会
- 各種体験をサポートする名人の確保
- 観光ボランティア・ガイドの育成
- 海外及び国内都市に向けて郡上市の観光を紹介する情報システムの確立
- わかりやすい外国語表示の統一案内板の設置

第4章 郡上市の観光振興

1. 基本構想

(1) 郡上市観光振興のコンセプト

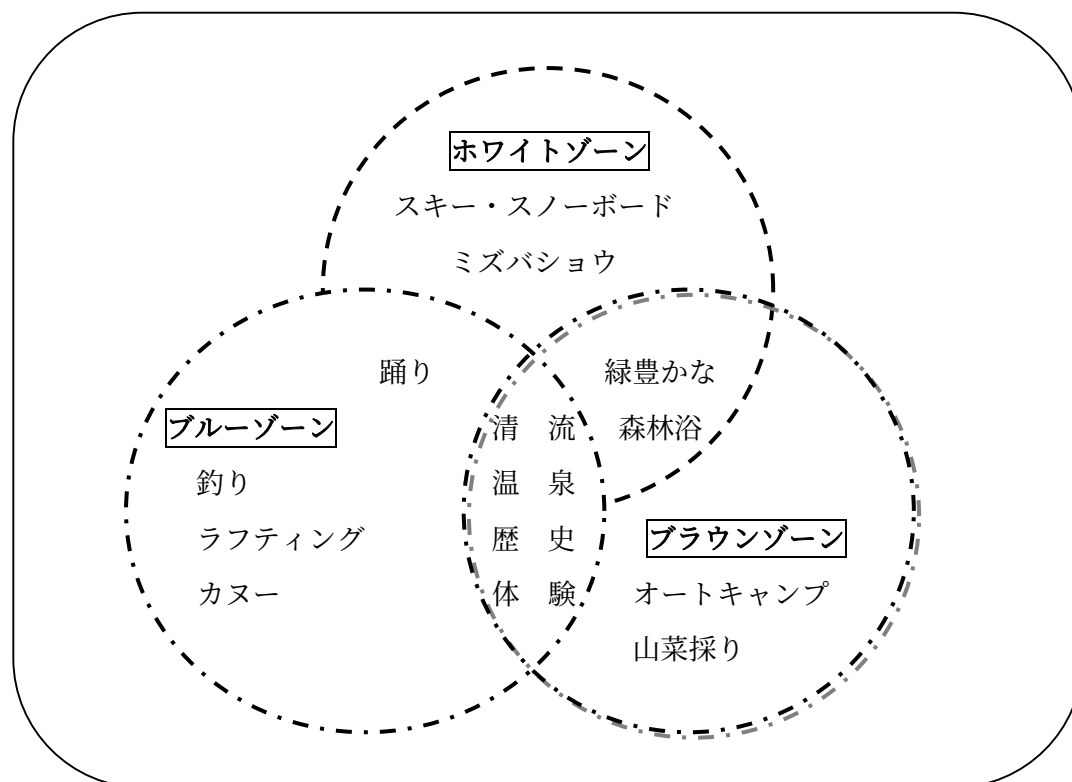
郡上市の地域イメージをキーワードで表現すると！

「郡上三彩自然劇場」

「水」を基本としたブルーゾーン、「雪」がテーマのホワイトゾーン、「木」のぬくもりを象徴したブラウンゾーン、この3つのゾーンが四季それぞれに織りなす自然劇場。その自然と彩りに調和した文化・伝統の中で、ある時は観客として、またあるときは出演者として参加する「郡上三彩自然劇場」を統一の基本コンセプトとする。

郡上の観光事業をダイナミックにとらえ全国的にアピールをするため、郡上市内のそれぞれの地域が持つ観光イメージを1つにした新しいコンセプトを設定する必要がある。新たな郡上市の誕生に伴い、住民が新しい期待をもっている今日、それを打ち出すタイミングと考える。

- 郡上の売り物は何と言っても長良川および支流を中心とする「水」を基本とした自然やレジャーと水を背景とする生活文化である。この水とのふれあいをテーマとする観光を「ブルーゾーン」（八幡、大和を中心とするブロック）とする。
- 次に関西圏・中京圏から一番近いウインタースポーツのメッカ、高鷲・白鳥・明宝を「ホワイトゾーン」とする。
- 次に山の緑、森や木のぬくもりとふれあう、和良・美並を「ブラウンゾーン」とする。



(2) 観光振興の種

《 新しいコンセプトに基づく観光の種の発掘と育成 》

郡上市には派手な観光資源は少ないが、基本コンセプトに基づく形で現在はそれほど観光化していない自然や文化などを発掘し、また既存の観光資源と組み合わせたなかでターゲット別に一つのストーリーを創り、「郡上」をより幅広く楽しい観光ゾーンとしてアピールする。

これまでの地域活性化策といえば、文化センターや博物館などの施設、いわゆる箱物などの「点」の整備が中心であった。

しかし、これから求められる観光の姿は、その地域にある自然・歴史・文化などをそれぞれ有機的に組み合わせて滞在時間を増やす「面の整備」が必要である。点から線へ、線から面へ移行して行くことが観光客と地元の人たちの交流機会を増やしまちの活性化につながる。

次に観光の要素としての関連性を観光のマトリックスにまとめる。

(3) 観光マトリックスから導き出される観光類型（タイプ）

① ターゲット別マトリックス

グループ化による年代層別に観光及び体験類型（タイプ）

	ホワイトゾーン	ブルーゾーン	ブラウンゾーン
ヤンググループ	スキー スノーボード 音楽祭	ジャンプ(飛び込み) ラフティング カヌー	オートキャンプ マウンテンバイク
ファミリーグループ	そりすべり スキー・スノーボード 動物等との触合い	ホタル鑑賞 ラフティング カヌー	鍾乳洞 ログハウス 自然体験 虫取り 星空鑑賞
シルバークラス	ネイチャースキー 温泉	鮎釣り 名水廻り	山菜取り 庭園廻り
中心ブロック	高鷲、白鳥、明宝	八幡、大和	和良、美並

②コンセプト別マトリックス

グループの観光動機別に観光及び体験類型（タイプ）

	ホワイトゾーン	ブルーゾーン	ブラウンゾーン
体験グループ	カマクラ 雪降ろし 雪像づくり	郡上・白鳥おどり 魚獲り 陶芸 押し花などの手作り	木彫り 乗馬 農業体験
リラクゼーション グループ	温泉 牧場 ミズバショウ	温泉 いがわの小路	温泉 森林浴
文化・歴史グループ	神社・仏閣廻り 白山信仰	歌舞伎・浄瑠璃 和歌・連歌 お城等	円空 戸隠神社祭礼
中心ブロック	高鷲、白鳥、明宝	八幡、大和	和良、美並

③グリーンツーリズムマトリックス

グリーンツーリズムの観光動機別に観光及び体験類型（タイプ）

	ホワイトゾーン	ブルーゾーン	ブラウンゾーン
農山村グループ	みそ作り 藁細工 野菜づくり、花づくり、 乳しぼり 貸農園	田植 稲刈り ハム作り そば打ち	炭焼き 森林作業体験、 植林 ログハウス
自然グループ	星ウオッチング バードウオッチング	ホタル かわあそび	はざこウオッチング、 木のおもちゃづくり
スポーツグループ	登山 乗馬 トレッキング ハイキング	つり 乗馬 オリエンテーリング	ルアーフィッシング、 フォレストパーク
中心ブロック	高鷲、白鳥、明宝	八幡、大和	和良、美並

(4)郡上市観光振興へのストーリー

シナリオ 1

《 ユニバーサルデザインによる観光地づくり 》

ユニバーサルデザインとは、ユニバーサル＝普遍的な、全体の、という言葉が示しているように「すべてのひとのためのデザイン」を意味し、年齢や障害の有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人が利用可能であるようにデザインすることである。

この言葉や考え方は、1980年代にノースカロライナ州立大学（米）のロナルド・メイス氏によって明確にされ、7つの原則が提唱されている。

- ① 誰にでも使用でき入手可能（公平性）
- ② 柔軟に使用できる（自由度）
- ③ 使い方が容易にわかる（単純性）
- ④ 使い手に必要な情報が容易にわかる（わかりやすさ）
- ⑤ 間違えても重大な結果にはならない（安全性）
- ⑥ 少ない労力で効率的に、楽に使える（省体力）
- ⑦ アプローチし、使用するのに適切な広さがある（スペースの確保）

高度経済成長時などにおける、若くて行動に制約のない大人を基準としてきたわが国のものづくり、まちづくりを反省し、最近各分野において、ユニバーサルデザインの視点から設計や基準の見直しが活発になってきている。

シナリオ 2

《 参加交流型の仕掛けづくり 》

観光にはさまざまな類型（タイプ）がある。これまでは自然景観や名所旧跡型、リゾート・保養型などが主流であったが、最近の傾向はスポーツ観戦型や体験・教養型、グルメ・ショッピング型などを含め、広義のイベントが主役である。観光が「SEEからDOへ」、見て楽しむだけの旅から参加交流型の旅へと変化していくなかで、イベントがその特性を発揮して、観光振興に於いてますます重要な役割となる。イベントの中にはさらにSEE型とDO型があり、最近ではDO型が注目を集めている。金沢はいま、和菓子や和紙のほか、美術工芸品の「体験ツアー」が大人気の観光都市である。（SEE＝見る、DO＝行動）

シナリオ 3

《 観光イベントづくりの種として、既存体験型観光のノウハウを活用する 》

その郡上市には、「ふるさと会員制度」の伝統を引き継いだ（財）郡上八幡産業振興公社が誘客運動の担い手となり【郡上八幡達人座】、達人座を活かした【郡上八幡まるごと合宿文化村】に代表されるように各地域それぞれにユニークなその種となる体験型観光のメニューとノウハウが既に存在している。

これを基盤として参加交流型の仕掛けを作っていくことを広義のイベント化と捉え、観光振興の柱の一つにしたい。

観光とイベントは、ともに地域の活性化に大きくかかわっている。地域の活性化のために観光の振興が大きな役割を果たし、その中でイベントが大きな位置を占めているからである。

シナリオ 4

《 ホスピタリティを「郡上市全体の資産」として誇りを持つ 》

団体で駆け足で見て回る旅より、家族や親しいグループで自分たちの趣味や嗜好にあったところをジックリと見てまわる滞在型の旅が人気になる。そうなると、地域の人たちと言葉を交わし、行事に参加し、旅人と地域の人が一体となって交流できることが必要となり、迎える側のもてなしの心「ホスピタリティ」が大きく問われることになる。

地域ぐるみでそのためのハードを整備し、魅力的なイベントを開催するとともに、観光に直接携わる人々はもちろんのこと、地域の人すべてが訪れる人々に常に温かく接すること、つまりホスピタリティを「郡上市全体の資産」として誇りを持つことを徹底する。

シナリオ 5

《 市民参加の観光のまちづくり 》

住民がすみやすく、観光客が訪れやすく、利用しやすい観光地とは、行政や住民が一体となって作り上げて行くべきものであり、場合によっては、観光客にも参加を求めることも必要である。

例えば、もてなしを演出する「観光ボランティア・ガイド」にしても、短時間に養成できるものではない。時間をかけてプログラムを実践することによって初めて「観光ボランティア・ガイド」になることができる。

高山市の代表的な観光施設である飛騨民俗村では、平成元年から飛騨高山ふるさとガイド事

業団に属するボランティアのガイドが活躍している。約30人のメンバーは高山市在住の教員OBで、地方の歴史や建物の特徴を説明しているが好評である。

きっかけは行政がつくり、そのプログラムづくりはNPO等が中心となって具体化する。

シナリオ 6

《 地域情報の発信体制とシステムの確立 》

地域における施設やアクセスを、ユニバーサルデザイン化して地域の活性化につなげようとする際、それを利用する人達に理解してもらえるように情報発信することが必要となる。

最近になってようやくホテル、旅館、見学施設などの施設改修情報が発信されるようになってきた。しかし観光客には容易に入手できないのが現状である。

郡上市の存在感を表し、個性的でインパクトのあるイメージの形成に役立つ情報、来訪者の立場に立ったきめ細かな観光情報、このような情報発信は、点の情報から地域全体の情報として、その情報を適宜、タイムリーに迅速に発信できる発信体制とシステムの確立が必要である。

例えば、観光資源の情報として、案内板や掲示板にICタグ等を取り付け、携帯電話で読み取れるようにするなどである。

シナリオ 7

《 外国語併記の推進 》

先進観光都市(横浜・神戸・京都・名古屋等)では外国語併記の案内標識が増えつつあるが。高山市が外国人を対象にしたアンケートで、「外国人がより快適な観光旅行を楽しむことができるようにするためには」の質問に対し、「土産品等の説明書に外国語文を併記することが大切」との指摘が最も多かった。

これからは案内標識だけではなくレストランのメニューや伝統工芸品の説明書に外国語を併記することが必要である。

2. 郡上市観光振興の提言

提言 1 ホワイトゾーンは国際的スキーリゾート化を目指す

日本は、雪にあこがれを持つアジアの人々を対象とした国際リゾートとして期待が持たれている。現在北海道は「雪」を目玉に集客しており、上海、香港、台北で圧倒的な人気を得ているが、それは1984年頃から地道な集客マーケティングを推進した成果だと言われている。

郡上市のホワイトゾーンは、日本最南端のスキーリゾート地であり、立地の優位性を活かして国際的スキーリゾートを目指すことを提言する。

中部国際空港も平成17年2月17日開港され、愛知万博も3月25日にはオープンするが郡上市のホワイトゾーンは「本州で雪国体験できる一番便利な立地」にあるので、これから国際的スキーリゾートとしての態勢を整え、来日人数の多い東アジア地域の人々に対し郡上市の知名度向上に力を入れ宣伝を行えば、今後大幅な集客が期待できる。

《事業計画》

- 国際的スキーリゾートの実現
- 利雪対策

《事業の目的》

- 郡上市観光の主軸の地位を確立する

《果たすべき役割》

- 通年リゾート化推進の基礎固め
- スキー場の二毛作

《期待される効果》

- 国内スキー人口の減少の補完対策
- ワンシーズン型スキー場タイプからの脱皮

提言 2 中高年対象のハーフマラソン

ハーフマラソンは中高年の健康志向を反映して盛況である。新聞社や協賛団体等外部の協力を得て行はれるものが多い。会費を徴収して行う本格的なものになると、県下の恵那峡マラソンのように、専門の運営会社に運営委託をしているケースもある。

通常ハーフマラソン以外に2 kmコース・5 kmコース・10 kmコースなども併設して参加者の年齢・体力等幅を広げ、3～7グループに分けスターと時間とコースを変えて対応している。

また、マラソンのゴール地点を温泉の近くに設定し、「走ったあとは〇〇温泉の〇〇風呂に入りゆったりとくつろいでください」をキャッチコピーにして温泉PRにも結びつける。

マラソン参加マニアの一例では、出場するエリアを（東海か北陸地方までぐらい）を自分で決めて年間計画を立て回数と行き先（参加する大会）を選びそのスケジュールに従って年間に5～10回位参加しているケースが多く、家族や友人のサポーターの参加による集客も期待できる。

ハーフマラソンに限らずイベントはただ集客のために開催するのではなく、市民と訪問客の真の交流の場とすることが必要である。

《事業計画》

- 中高年対象のハーフマラソン大会開催
- 体力に合わせたコースづくり

《事業の目的》

- 郡上市を訪れたことのない観光客の誘致
- サポーターの存在

《果たすべき役割》

- 郡上市の観光PR認識度の向上

《期待される効果》

- 参加ランナーと家族や友人などサポーターの観光及び宿泊が期待できる
- 一度来てくれれば、リピーターとして常連になってくれる確率が高い

提言 3 レトロバスによる温泉めぐり

観光客のアンケートの中で多くあった要望は、「郡上八幡に温泉があるとよい」であった。地元温泉が掘削出来ればそれに越したことはないが、それが出来ないのであれば温泉に手軽に行ける機会づくりが、大きな課題である。

そこで、少し足を伸ばせば行ける郡上八幡周辺の温泉をレトロバスで巡るのは如何がなものか、神戸市などでは、市内観光巡りに特別仕様のループバスを走らせて、観光客から好評を得ている。

当市においても、明宝温泉湯原館、大和温泉やすらい館、美人の湯しろとりなどをレトロバスを走らせて各地の温泉を楽しむとともに、温泉地周辺の観光にもレトロバスを利用していただくことも可能である。このことにより、一層郡上八幡の観光に魅力が増すものと思われる。

《事業計画》

- 中型バスを特別仕様のレトロバスに改造する
- 車体の色をモスグリーンとチョコレート色の2台
- 巡回コースを決めて定時に目的地をめぐる

《事業の目的》

- 郡上八幡の観光客の温泉ニーズに応える
- 温泉を手軽に利用できるシステムづくり

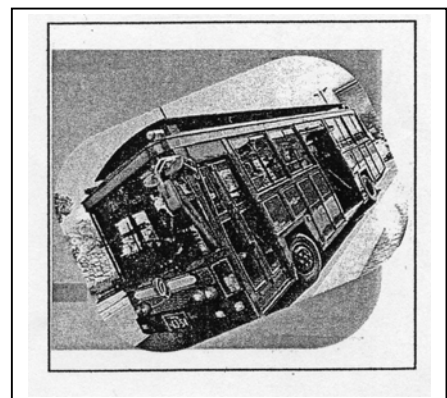
《果たすべき役割》

- 観光客の温泉志向を満たす
- 地元市民の利便性への対応(自動車に乗れない人)

《期待される効果》

- 観光客の滞留性の向上
- 地元市民のコミュニケーション
- 郡上市の名物（観光振興）

レトロバス



提言4 郡上市内旅館の活性化

現在の国内観光の不振は「デフレ不況」のせいだけではなく、「社会構造の変化」と「観光地・旅館と消費者ニーズのミスマッチ」という3つの要因が重なった複合不況といわれている。観光地および旅館経営者の改革努力がなければ、景気が回復したとしてもかつての好況は望めない。

旅館のサービスは、「すべてお任せください……」から「自分で選んでください……」という方向に進んでいる。そのため業界として「消費者が自由に選べる売り方」と「選ぶための正確でわかりやすい情報提供」に変えて行くことが必要である。

1. マーケティングを強化し、自分の生き残る分野を絞り込む

自館のターゲット客層を決めて、的を絞ったサービス・商品に変えていく

2. 旅館の販売方法を見直す

基本は自由に選べる泊・食分離。その中の“お勧めコース”として「一泊二食」を位置づける

3. 旅館の魅力を再構築する

(1) 個性ある空間づくりに向けてのキーワード

— 風土との一体感・素朴さの中の洗練・地域色と折り合った国際色 —の3つである

(2) 旅館料理という概念から離れて“楽しい食事の情景”を創造する

(3) 「風呂」の意味を再考……一人でリラックス・仲間と楽しむ・地域の生活文化を体験する

温泉人気の高いことから、温泉のない旅館ではタンクローリーによる温泉輸送で「温泉風呂あり」も検討する

《事業計画》

- 郡上市内旅館の活性化
- ハード面・ソフト面の改善

《事業の目的》

- 今までのハードに頼った経営手法、一時的な流行に追従する経営姿勢を見直し、個々の旅館が“自分の道を選ぶ”ことにより多様な宿泊施設へと分化していくこと

《果たすべき役割》

- 大河ドラマブームの到来対策
- 観光都市郡上市の受け皿づくり

《期待される効果》

- 「個性ある旅館になるためには何を考えなければいけないのか……」に一つの方向性を示す

提言 5 「自転車タクシー」による遊覧

古い観光地に代表される奈良・金沢・高山などでは人力車が観光地めぐりの足となって活躍している。郡上八幡は起伏が多く、他都市にはない観光地めぐりの足として、自転車タクシーの運行を提唱する。

平成17年3月に開催される愛知万博の会場で「環境に優しい」乗り物として自転車タクシーの採用が決まっている。自転車タクシーは既に京都市でも運行されており、スローライフに即した乗り物として今後、自転車タクシーを当市の観光タクシーとして是非とりあげていただきたい。

ヨーロッパ中部の古い観光都市では、馬車による観光地めぐりが盛んに行われており、都心の道路を自動車、路面電車と共存して走っていてその優雅さに魅せられた。

当市の現状では馬車や人力車は環境面、コスト面から実現が難しいので、大人二人が乗れる自転車タクシーが優れていると思われる。採用されれば目新しさも手伝い、人気が出るものと確信する。

《事業計画》

- NPO法人が運営団体となり、車両の確保、運営を行う
- 街並みにマッチしたデザインの自転車の採用

《事業の目的》

- 観光客の個別需要による観光地めぐり
- 当初10台程度揃え、状況を見ながら増やしていく（人員調節）

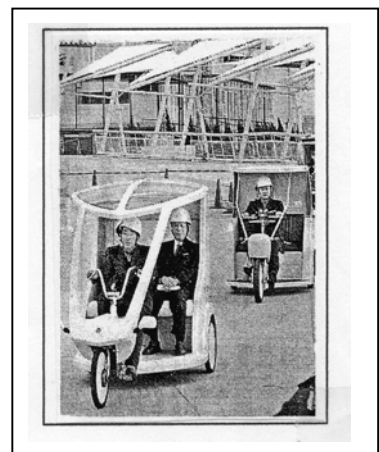
《果たすべき役割》

- 観光地を個人のスケジュールに合わせて見て回る
- バリアフリー機能の発揮

《期待される効果》

- 観光地の名物になる
- 自動車と共存しながら生活道路にまで入り込める
- 観光客への個別ニーズに応えられる
- 雇用の場の提供

自転車タクシー



提言 6 グリーンツーリズムをベースにした新型リゾート化

○ 日本のグリーンツーリズムの特徴

- (1) 都市と農村が近くて、日帰り型が多い
- (2) グリーンツーリズム施設の過半数を運営する地域経営体
- (3) リピーター重視のグリーンツーリズム
- (4) 地域の個性や多面的機能を重視したグリーンツーリズム

○ 対象を宿泊型にとどめず、日帰り型も含める

特徴(1)より、グリーンツーリズムの対象を宿泊型にとどめずに、産地直売、朝市、農林漁業体験、農業レストラン、道の駅などの日帰り型も含めることにより、グリーンツーリズム産業と地元の農林漁業との産業連携が図れる。

○ 個人経営より地域経営体を中心に組織変更を推進していく

特徴(2)は、グリーンツーリズム施設運営は1990年以前には、国や県、市町村の行政機関直営が47.3%を占め、地域経営体は46.5%であった。しかし、1990年後半以降では、行政機関直営は31.7%に減少して、地域経営体が56.9%へと増加している。

グリーンツーリズムの受入態勢作りは、農家単位のみでは困難であり、地域経営体家族（個人）経営主体から、農林漁家のグループ、集落旧村の自治組織、JA・森林組合・漁協の生産者団体、第三セクターの地域経営体等の地域経営体に移行していくことが望ましい。

○ リピーターやサポーター重視と移住希望者の受入態勢づくりに努力する

特徴(3)は、グリーンツーリズムには4つのタイプの訪問者があり、アグリライフへの認識がビジター型→リピーター型→サポーター型→農村移住希望型へとステップアップしていき、特定農村とのかかわりが強まっていく。グリーンツーリズムを推進する場合、リピーターやサポーターの確保と移住希望者の受入態勢づくりに努力することが重要である。

○ 地域の個性や多面的機能を重視する

グリーンツーリズムでは、各々の農山漁村が地域の個性を出そうと努力している。

ビジター型の訪問者は、農村の景観・自然・文化に感動して、現地を訪問し滞在する。

リピーター型の訪問者は五感で覚えた農村の景観・自然・文化への感動から、目に見えない地域の人々の価値観や生き方を体験・学習しようと、何度も同じ農村を訪れる。

サポーター型の訪問者は地元の人々の価値観や生き方を自ら実践するために、移住したいと思う。このようにグリーンツーリズムの基調には、農村住民と都市住民のアグリライフという価値観や生き方への共鳴がある。

○ アグリツーリズムも選択肢の一つである

先進国イタリアの農業地帯で「アグリツーリズム」が受けている。これは食事、宿泊施設のある農家で過ごすバカンス、または、野良仕事をして働く代わりに農家に泊めてもらう。

農家が経営し、家族で運営し、食材の大半は自家製で賄われる。素朴で暖かなコミュニケーションの雰囲気を作り上げ、独自の手作り料理が、都市の人々に自然の大切さや農村文化の豊かさを教えてくれる。乳絞りを手伝ったり、野菜や果物の収穫を手伝う。

働くばかりでなくテニスや乗馬などが楽しめる、1週間から10日ステイしていく。

日本でもイタリアの農村を参考にした実践例がぼつぼつ見られるようになった。

○ 宿泊施設付つき貸農園スタイル

従来アウトドア指向から「新しい技術 新しい思想 新しいライフスタイル」を身に付けて森の価値を見直そうという気運が高まっている。21世紀は自然を残した環境の中で、設備が完備したいわゆる別荘のような滞在型のオートキャンプが主流なと考えられる。

また、これからは、宿泊施設付き貸農園スタイルで年間契約料を払い1区画を借りて野菜や果物を育てるシステムが好まれると予測される。

《事業計画》

○ 個人経営より地域経営体への移行の推進

《事業の目的》

○ 新しいグリーンツーリズムの展開による農村の内発的発展

《果たすべき役割》

○ 食と農の学習を楽しむ、自然環境や循環型社会の学習

《期待される効果》

○ 都市市民を巻き込んだ多面的機能の保全活動

○ 都市住民の新しいライフスタイルの実現

○ 郡上市民と都市市民との交流の促進

お わ り に

郡上市は、先進観光都市高山市、世界文化遺産白川郷等を控えているものの、国の重要無形民俗文化財の郡上おどり、白山国立公園、長良川県立自然公園に属し、県内でも自然環境と歴史・文化に恵まれた地域であります。しかし、先進地域を反面教師として、当市の観光振興の展開は、自然環境・景観の維持保存、歴史的文化遺産・伝統文化の継承を行うとともに、国際化・ユニバーサルデザインへの対応、滞在型施設の整備も必要です。

幸いなことに当市は観光資源にも恵まれ、これから時流となる体験観光についても、既に実績を持つという有利性も持っています。

この調査報告書が、平成 16 年 3 月 1 日郡上市発足と同時に誕生した「郡上市観光連盟」の今後の活動と、郡上市の観光振興の一助になれば幸甚に存じます。

終わりにになりましたが、この事業の調査や推進にご協力いただきました各位に心よりお礼を申しあげ結びに代えさせていただきます。